

秘

九	一	十	類
函	架	冊	

英佛軍ノ軍用鳩ニ就テ

供覽

内閣書記官

内閣書記官

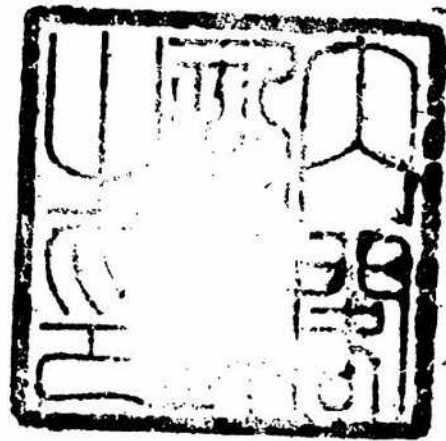
臨時軍事調査委員

大正八年九月二十日陸軍省印刷

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	34-6
	① 2144



2145



英、佛軍ノ軍用鳩ニ就テ

要旨

本書第一編ハ大正七年三月英國參謀本部ニ於テ野戰軍用鳩使用ニ關シ將校必携トシテ出版シタルモノニシテ軍用鳩ノ飼養管理、取扱法、通信方法、航空機ヨリノ使用注意竝編制其ノ他疾病及諸注意ヲ縷述セリ第二編ハ佛國軍力大正七年五月軍ノ鳩取扱兵教育ノ目的ヲ以テ極メテ簡易ニ編纂セシ講授録ニシテ共ニ軍用鳩飼育竝使用上參考ニ資スヘキ點多キヲ以テ茲ニ譯述紹介ス

# 英、佛軍ノ軍用鳩ニ就テ

## 目次

第一編 戦時ニ於ケル英軍ノ軍用鳩用法	四頁
第一章 緒言	四
第一節 總則	四
第二節 鳩ノ歸來性	五
第三節 幼鳩	七
第二章 鳩ノ管理	八
第四節 鳩舎	八
第五節 鳩ノ取扱	一六
第六節 飼養管理	一六
第七節 鳩舎ノ標識	一八
第八節 鳩籠及運搬法	一九

目次



第三章 通信業務	二二
第九節 通信ノ書方	二三
第十節 軍用鳩ニ通信書ノ固定法	二三
第十一節 發信及受信	二七
第四章 英國出征軍ニ於ケル軍用鳩勤務ノ編制	二八
第十二節 英國出征軍軍用鳩ノ用法	二八
第五章 航空機ヨリスル軍用鳩ノ用法	三三
第十三節 要領	三三
第六章 軍用鳩勤務ノ過誤	三四
第十四節 管理ノ失當	三四
第十五節 鳩及裝備具ノ損失	三五
第十六節 鳩ノ疾病	三六
附錄	
第一 固定鳩舎ノ器具材料	三八
第二 移動鳩舎ノ器具材料	三九

第三 各司令部ノ器具材料	四一
(一) 總司令部	四一
(二) 軍團司令部	四一
(三) 師團通信中隊本部	四二
(四) 騎兵師團	四二
第四 通信文記載例	四三

附圖

第二編 佛軍軍用鳩飼育法	四五
第一章 緒言	四五
第二章 鳩取扱者ノ責任及具備スヘキ性格	四九
第三章 鳩舎	五一
第四章 軍用鳩	五三
第五章 軍用鳩ノ歸還スル本能	六〇
第六章 軍用鳩ノ食料	六五
第七章 演習ノ必要	七三

目次



第八章 病氣—手當……………七六

第九章 手 術……………八七

第十章 寄生蟲……………八八

## 英佛軍ノ軍用鳩ニ就テ

第一編 戰時ニ於ケル英軍ノ軍用鳩用法

### 第一章 緒 言

#### 第一節 總 則

第一 這次戰役中軍用鳩ノ使用ハ陸海軍共ニ非常ニ重要視スルニ至リ異常ノ發達ヲ來タセリ

第二 海軍ニ於テハ軍用鳩ハ無線電信ヲ利用シ得サル場合陸上ト通信スル爲ニ用ウ

陸軍ニ於テハ砲火猛烈ニシテ彈丸雨下スルトキ又ハ毒瓦斯煙ノ幕ヲ通シ他ノ通信方法ヲ講シ得サルノトキ鳩ヲ使用シテ重要ナル通信ヲ傳達スルコトヲ得

現在ニ於テハ鳩ハ一般ニ戰線ノ塹壕及歩兵隊又ハ攻撃前進中ノ「タンク」ヨリノ通信ニ使用セラル其ノ

他陸海軍共ニ航空機ヨリ軍用鳩ヲ使用シテ其ノ通信ニ成功セリ

第三 運動戰ニ於テ敵ニ遮斷セラレタル兩地區間ノ通信手段トシテ鳩ハ必要缺クヘカラサルモノナリ又鳩ハ前方ニ行動スル騎兵及他部隊ノ斥候ヨリ通信ヲ携行歸來シ得ルヲ以テ益其ノ價値ヲ認メラル

第四 戰場ニ於テ軍用鳩ノ效果ヲ適確ナラシメムカ爲ニハ戰地ニ於テ軍用鳩ノ教育及配當、鳩舎ノ管理ニ專任セラレタル將校及兵卒ハ鳩ノ飼養及保護ニ關シ十分ノ智識及經驗ヲ有セサルヘカラス

戰線ニ於テ發信又ハ飼養等ノミニ從事スル兵卒ニ對シテハ鳩ノ取扱ニ關シ單ニ二、三ノ事項ヲ教育注意シ置ケハ十分ナリ

#### 第二節 鳩ノ歸來性

第一 總テノ鳥類ハ自己ノ巢ニ歸來スル通性ヲ有ス殊ニ他ノ鳥類ヨリモ容易ニ人ニ馴レ易キ鳩ハ昔時ヨリ此ノ歸來性強烈ナルヲ認メラレ數世紀前ヨリ通信傳達者トシテ利用セラレタリ

第二 鳩ノ歸來性ヲ單ニ其ノ本能ニ歸スルカ又ハ地形ニ關スル記憶或ハ視力ノ異常ニ敏捷ナル感能ニ歸スルカニ就テハ專門家中其ノ所説ヲ異ニスルモ戰場ニ於ケル實驗ニ徴スレハ六十乃至七十哩ヲ越エサル距離ヲ飛翔セシムルトキ鳩ノ記憶力及視力ハ歸來ニ關シテ最重要ナル條件タルコト疑ナキカ如シ

第三 鳩ヲ或地點ニ歸來セシムルニハ漸進的ニ教育スヘシ若未教育ノ鳩ヲシテ最初ヨリ四、五十哩ノ距離ヲ飛翔セシムルトキハ其ノ歸來不確實ニシテ且甚タ遲延ス幼鳩カ一、二、五、十、十五、二十、三

十哩ト漸次飛翔距離ヲ延長シテ教育セラルルドキハ熱地ニ於テ晴天ノ際確實ニ五十哩ノ飛翔ヲ爲シ得ヘシ

六

第四 鳩ノ歸來スル速力ハ風向及風速ニ關ス即チ快晴ニシテ順風ノトキハ一分時千二百乃至千七百碼ヲ飛翔ス之ニ反シ逆風ノ際ハ一分時八百乃至九百碼ニ其ノ速力ヲ減ス

第五 鳩ノ飛翔スル高サモ風ノ如何ニ關ス即チ靜空ニ於テ飛翔ノ普通高度ハ二千四百呎ニシテ逆風ナルトキハ初メ其ノ方向ヲ定ムル爲高ク昇リ後地上七十乃至八十呎ノ高度ニ下降スルカ又ハ樹木、家屋ノ介在物ニ視界ヲ妨碍セラレサル最小限度ノ高サニ下降ス順風ノ際ハ最適當ナル氣流ヲ利用スル爲普通高度以上ニ昇翔スルコトアリ

第六 濃霧ノ際ハ鳩ハ正確ニ歸來スルコト頗ル困難ナリ且鳩ヲ夜間飛翔セシムルトキハ其ノ歸來ハ確實ナラス若黄昏後放鳥セハ鳩ハ其ノ夜啼木ニ休止シ翌日日出ト共ニ再ヒ其ノ飛翔ヲ開始ス

第七 非常ノ場合ニ於テノミ長距離ヲ飛翔セシムルコトアリト雖飛翔スヘキ距離増大スルニ從ヒ鳩ノ斃死又ハ錯誤ヲ生スル危險ハ益増加ス

飛翔ニ最適當ナル天候ニ於テハ調教完全ナル老鳩ハ四百乃至五百哩以上ヲ飛來スルコトヲ得長距離飛翔ノ記録ハ千九百十三年ニ於ケル英國、羅馬間千〇〇一哩ノ飛翔トス然レトモ放鳥シタル百六羽中僅ニ二羽ノミ歸來シタリト云フ

第八 軍事上百哩以上ノ飛翔ハ特別ノ場合又ハ既ニ能力ヲ證明セラレタル第一流ノ鳩ニアラサレハ實施シ得ス

第九 十哩ノ距離ニ於テハ一羽ノ鳩ヲ以テ確實ニ通信ヲ傳達スルコトヲ得ルモ之ヲ百哩ニ延長スルトキハ通信ハ二通トシ各一通宛ヲ二羽ノ鳩ニ托スヘシ又天候不良ノ際モ同様ニ重複放鳥ヲ行フコト必要ナリ然レトモ若シ鳩ノ數僅少ナルカ又ハ鳩ノ補充不確實ナル場合ニハ一羽ヲ使用スルノ已ムナキ事情ヲ通信書ノ正本ニ記載シテ放釋スヘシ而シテ副本ハ其ノ後ノ通信ヲ携行セシムル第二ノ鳩ニ托スルコトヲ得

緊急ヲ要スルカ又ハ重要ナル通信ハ必ス重複通信ノ方法ニテ發送スヘシ

第十 鳩カ鳩舎ニ歸來スル習慣ト其ノヲ發見スル正確ノ程度ハ善良ナル取扱及飼養ニ依リテ舍内居住ノ習慣ヲ向上セシメタル度合ニ關係スルコトヲ忘却スヘカラス故ニ鳩舎掛ニハ常ニ熟練シタル者ヲ配屬スルコト緊要ナリ

### 第三節 幼鳩

第一 良好且手厚ク飼育セラレタル鳩ハ一年中何レノ時期ニ於テモ繁殖シ得ルモ鳩ヲ配偶セシムルノ最好時機ハ二月中旬トス雄鳩ト雌鳩ハ配偶前殆ト一箇月間隔離スヘシ配偶スルトキハ鳥ノ各々ニ區劃セラレタル副房ヲ要ス



第二 配偶ノ八日後雌鳩ハ第一卵ヲ産シ一日ヲ置テ第二卵ヲ産ス雌鳩ハ産卵十七日後ニ於テ孵化スルモノトス

第三 雄鳩、雌鳩共ニ抱卵シ且雌鳩ヲ哺育ス雄鳩ハ午前十一時ヨリ午後三時マテ抱卵シ雌鳩ハ其ハ餘ノ時間ヲ抱卵ス鳩ノ飛翔練習ヲ整調スル爲上記ノ事實ヲ記憶スルゴト甚ク重要ナリ雄雌共ニ此ノ抱卵時期ニ於テ最良ク飛翔シ且歸來性旺盛ナリ

第四 雛鳩カ十分成長スルヤ否ヤ直ニ之ヲ分鳩舎ニ移シ而シテ數日後棲木就眠及採食ニ慣レタルトキニハ之ヲ外出セシムルコトヲ得ルモ此ノ新鳩舎ノ周圍ニ全ク馴致スル迄ハ調教飛翔ヲ行ハサルモノトス之カ爲ニハ二、三週間ノ豫備飛翔ヲ要スルモノナリ

第六 幼鳩(Squabblers)トナリ生後三箇月ヲ經タルモノハ勤務作業ノ準備ヲ爲スヘシ此ノ時期ニ於テ強壯ナル幼鳩ハ調教シアラハ裕ニ戰場ニ於テ十乃至五十哩ノ飛翔ニ成功ス

第七 幼鳩カ其ノ巢又ハ鳩舎ニ全ク馴致スルヤ直ニ調教ヲ開始ス而シテ演習後自ラ鳩舎ヲ發見シ採食ニ歸來スル如ク教育スヘシ

鳩ハ其ノ體格強健ナルモノハ飛翔演習ノ際自由ニ飛翔シ且又通信ヲ携行歸來セシムルニ其ノ速度早シ

## 第二章 鳩ノ管理

### 第四節 鳩舎

第一 鳩ハ鳩舎又ハ派出所ニ配屬セラル

鳩舎ハ鳩ヲ收容シ通常通信ヲ以テ歸來スヘキ古棲トナルヘキ場所ニ建設セラル  
鳩舎ヲ左ノ如ク區分ス

#### I 固定鳩舎

#### II 移動鳩舎

尙移動鳩舎ヲ左ノ如ク區分ス

##### 1 馬曳移動鳩舎

##### 2 自動車移動鳩舎

派出所ハ鳩ヲ鳩舎ヨリ鳩籠ニ入レテ派遣シ發信ノ姿勢ニ在ル所トス

派出所ヲ左ノ二様ニ區分ス

#### (一) 歩兵用軍用鳩派出所

#### (二) 騎兵師團用移動軍用鳩派出所

固定鳩舎ハ特別ノ構造ヲ有シ通信部ニ依リテ選定セラレタル地點ニ建設セラルルカ又ハ戰地ニ現存スル地方鳩舎ヲ徵發シ總軍通信部長之ヲ交付ス

第二 固定鳩舎ハ家屋ニ近接スル納屋、住宅又ハ物置等ヲ利用シテ建設ス

第一編 戰時ニ於ケル英軍ノ軍用鳩用法



戰場ニ於ケル固定鳩舎ハ或ル目的ノ爲ニ特種ノ構造ヲ有スル木造小屋トス

鳩舎ハ必要ナル鳩ノ數ニ應シ種々ノ形ヲ有ス而シテ一箇ノ大鳩舎ヲ作ルヨリモ數箇所ノ小鳩舎ヲ應用スル方寧ロ有利ナリ蓋シ一箇所ニ於テ多數ノ鳩ヲ練習飛翔セシムルトキハ敵ノ飛行機又ハ密偵ニ對シテ鳩舎ノ位置ヲ發見セラレ易キ不利アルヲ以テナリ

第三 鳩舎ノ位置ヲ選定スル場合ニハ次ノ事項ニ注意スルヲ必要トス

(一) 鳩舎ノ附近ニ電信線アラサルコト

(二) 周圍ハ高屋又ハ樹木ニ依リ繞圍セラレアラサルコト

而シテ固定鳩舎ハ最寄通信所ト電話ヲ以テ連絡シアルコト必要ナリ

第四 鳩ニ對スル設備ハ十分ナルヲ要ス何トナレハ狹隘ナル鳩舎ニ於テ鳩ハ良好ナル發育ヲ遂ケ難ケレハナリ鳩舎ノ空間ハ一羽ニ對シ一立方呎十四乃至十五ヲ要スルモノトシテ算定スヘシ(鳩舎ノ内ニ何等ノ什器等ヲ設備セサルモノトシテ)幅六呎、長サ八呎、高サ七呎ノ鳩舎ハ繁殖ノ目的ヲ以テ十二對ノ親鳥ヲ入ルルニ適シ尙新鳩舎ニ分離スルニ十分ナル發育ヲ遂クル迄同數ノ雛鳩ヲ收容シ得

第五 各鳩舎ハ一乃至數箇ノ係蹄(Foot)ヲ要ス而シテ各係蹄ニハ電氣裝置ヲ施シ服務中ノ下士ニ鳩カ通信書ヲ携行歸來シタルコトヲ告知スルカ如クス

係蹄ハ鳩舎ノ中ニテ鳩カ係蹄ニ入りナカラ周圍ノ狀況ヲ見得ルカ如キ場所ニ置クヘシ

第六 鳩舎内ハ明ルク空氣ノ流通良好ニシテ鳩數ニ應シ十分ナル數ノ小ナル棲木ヲ備フヘシ此ノ棲木ハ四角ナル淺キ箱形ニシテ壁ニ附シ各棲木ハ十吋平方ニシテ前後三吋ノ縁ヲ有ス

棲木ハ不足セサルカ如ク準備スヘシ何トナレハ鳩カ各自一箇ノ棲木ヲ占有セサルトキハ爭鬭ヲ惹起シ爲ニ飛翔能力ニ非常ノ關係アル羽毛ヲ損傷スレハナリ

第七 移動鳩舎ハ固定鳩舎ヲ建設シ能ハサル地點ニ於テ使用ス佛國ニ於ケル英國出征軍ニハ師團毎ニ二箇ノ馬曳移動鳩舎ヲ配屬シ移動鳩舎ニハ定數トシテ六十乃至七十五羽ヲ收容ス而シテ鳩カ一定ノ場所ニ於テ此ノ移動鳩舎ニ歸來スヘク馴レタル後ニ於テハ部隊ノ前進、後退ニ應シテ移動鳩舎モ前進、後退スルコトヲ得

第八 移動鳩舎ノ内部ノ設備ハ固定鳩舎ト略同様ナルモ鳩カ演習又ハ調教飛翔ノ爲解放セラルル前四圍ノ狀況ヲ容易ニ記憶シ得ル爲ニ鳩舎ノ頂上ニ展望檻ヲ設クヘシ

第九 移動鳩舎カ新位置ニ移動シタルトキハ鳩カ新鳩舎ヲ發見スルニ必要ナル諸種ノ條件ヲ考察シ放鳥ニ際シ十分ノ注意ヲ拂フヘシ

移動ノ際鳩舎ノ新位置ヲ選擇スルニハ常ニ熟練ナル鳩舎掛ノ意見ヲ徵スヘシ其ノ位置ハ出來得ル限り樹木又ハ高屋ニ遮蔽セラレサル所ナルヲ要ス

第十 鳩舎移動ノ範圍ヲ決定スルニハ次ノ諸項ヲ斟酌スヘシ即チ空中ヨリ新鳩舎ヲ明視シ得ルコト、取

一  
二  
扱者ノ性格、取扱人ノ鳩ニ對スル取扱ノ適否、鳩カ歸來スルニ慣レタル航路ニ沿フテ新シキ鳩舎ノ位  
置選定等トス

第十一 鳩舎移動後取ルヘキ處置概ネ次ノ如シ

鳩舎カ一哩位移動スル場合ニハ鳩ヲ新シキ派出所ニ送ル前ニ一、二日間鳩舎ノ頂上ニ設ケタル展望檻  
ノ中ニ入レ次テ少數ノ鳩ヲ餓餓ノ状態ニシテ屋上ニ放チ鳩カ飛翔シテ鳩舎ニ歸來スレハ直ニ殘餘  
ノ鳩ヲ同時ニ少數宛放鳥ス斯クシテ實際ニ鳩ヲ通信ノ爲使用スルニハ其ノ以前尙二、三日間此ノ練習  
ヲ繼續スヘシ

第十二 次ノ事項ハ移動鳩舎カ新シキ位置ニ移動シタル後鳩ヲ鳩舎ニ歸來セシムル一般ノ方法ナリ然レ  
トモ細項ニ互リテハ鳩舎ヲ移動セシメタル距離ニ依リテ種々異ルモノナリ  
鳩舎ハ少クトモ三日間閉鎖シ置キ鳩カ四圍ノ狀況ヲ觀察シ且其ノ狀況ニ馴致スル迄飛翔セシメサルヲ  
可トス

原則トシテ新位置ニ馴居スルマテハ餌ヲ以テ鳩ヲ容易ニ呼ヒ集メ得ル様一般ニ減飼シ置クヲ要ス  
第四日ニ天氣晴朗ナラハ老鳩ノ第一群(十二羽)ヲ結著(Bird) (第二十一参照)シテ食餌ヲ與ヘス  
鳩舎ノ屋根ニ置キ鳩舎掛助手ヲシテ呼ヒ集メシメ鳩カ鳩舎ニ歸來スルマテハ食餌ヲ與ヘス

第五日ニ至リ以上ノ鳩群ヲ再ヒ結著シテ出シ再ヒ呼ヒ入レ又夕刻ニ至リ結著セシメテ舎外ニ出シ再ヒ  
餌ヲ以テ呼ヒ入ル若天氣良好ニシテ無風ノ際尙第二群(十二羽)ヲ結著シテ鳩舎ノ屋上ニ置ク

第六日ニハ第一群ハ舎外ヲ飛翔セシメ第二群ハ夕刻結著セシメテ舎外ニ出ス(第五日ニ於ケル第一群  
ノ如シ)第三群(十二羽)ハ結著シテ鳩舎ノ屋上ニ置キ斯ノ如クシテ各鳩カ鳩舎ノ周圍ヲ飛翔シ得ルニ  
至ルマテ毎日連續此ノ方法ヲ實施ス然レトモ原則トシテ各鳩カ全ク馴居スル迄ハ一時ニ二十四羽以上  
ヲ結著セシメテ放釋スヘカラス

狀況有利ナル場合ハ七十二羽ヲ有スル鳩舎ノ移轉馴居ニハ約十日間ヲ要ス

第十三 鳩舎カ五、六哩乃至十哩ノ距離ヲ移動スルトキニハ飛翔セシムル前約一週間ハ鳩舎内ニ抑留シ  
而シテ軍事上ノ目的(通信勤務)ニ使用シ得ル迄ニハ尙一週間ノ日子ヲ要ス(鳩舎附近ノ練習飛翔ノ爲)

第十四 實際ニ於テハ移動鳩舎ヲ一時ニ移動セシムル距離ニ制限ナキモ二十哩乃至三十哩以上移動スル  
トキハ鳩舎ノ周圍ニ慣レシムル爲前記ノ日子ニ尙一週間以上ノ日子ヲ要スヘシ

此ノ場合ニ於テ鳩舎カ移動スヘキ方向ハ此ノ日子ニ非常ノ關係ヲ有ス即チ以前ノ鳩舎ノ位置ニ歸來ス  
ル様ニ慣レタル地區ヲ飛翔スルトセハ未知ノ地區ニ移動シテ飛翔スルヨリモ鳩舎ニ馴致セシムル爲ニ  
ハ僅少ノ日子ニテ可ナリ

第十五 鳩舎ノ新位置ニ同一ノ鳩取扱者ヲ隨伴セシメ而シテ鳩ノ調教慈育ニ從事セシムルトキハ鳩ハ其  
ノ取扱者ノ號令ヲ熟知シ鳩舎ニ歸來セシムルニ手數甚タ少キモノトス



第十六 戰術上ノ用途以外ニ於テモ時々移動鳩舎ノ位置ヲ若干距離移轉スルコト必要ナリ此ノ移動ハ百碼ヲ超ユルノ必要ナシ若是以上ニ出ツルトキハ新位置ニ於ケル鳩舎發見ノ練習ヲ鳩ニ施ス必要ヲ生ス

第十七 移動鳩舎ハ寧ロ發見容易ナルヲ要スルモ時トシテ若干ノ假裝ヲ施シ又ハ保護ノ爲掩壕内ニ引キ入ルルコトヲ得又移動鳩舎ニ於ケル鳩ハ直ニ砲火ニ馴致スルモノナリ

第十八 一地ニ建設セラレタル固定鳩舎モ新シキ場所ニ移轉スルコトヲ得而シテ適當ニ處置スレハ鳩ハ新位置ノ鳩舎ニ歸來シ得ルモノニシテ此處ニ鳩ヲ馴居セシムルニハ移動鳩舎ノ際ニ述ヘタル方法ト同様ノ原則ヲ適用ス有利ノ狀況ニ在リテハ固定鳩舎ハ一羽ヲモ失フコトナク三十乃至四十哩ヲ移轉スルコトヲ得

固定鳩舎ノ移動ノ際ニハ舊位置ニ兵卒ヲ殘置シ若鳩カ誤リテ歸來セハ之ヲ追拂フコト必要ナリ  
固定鳩舎移動又ハ改築ノ際ハ鳩ヲ十分靜ニ鳩籠中ニ入レ準備完成スル迄ハ決シテ鳩ヲ鳩舎ニ入ルヘカラス此ノ移動又ハ改築中ニ鳩ヲ混亂セシムルトキハ新シキ鳩舎ニ歸來スル性能ヲ障礙ス  
附圖ハ固定鳩舎カ新シキ位置ニ移動シタルトキ放鳥スル前四圍ノ狀況ニ馴致スル爲固定鳩舎ノ屋上ニ設ケタル檻ヲ示スモノナリ固定鳩舎カ移動後鳩ヲ馴居セシメ而シテ勤務ニ服セシムル準備ヲ整フルニ

ハ一乃至二週間ヲ要スルモノトス  
第十九 固定、移動孰レノ鳩舎タルヲ問ハス一鳩舎ハ五十乃至六十羽毎ニ一名ノ熟練ナル取扱者ト一名ノ助手ヲ要ス而シテ助手ハ取扱者不在又ハ移動ノ際ニ於ケル鳩ノ取扱ニ關シ十分教育サレアルモノトス

良好ナル取扱者ハ忠實ナル助手ヲ附セラルトキニハ實際ハ百羽ノ鳩ヲ管理スルニ十分ナリ而シテ五十乃至百羽ヲ増ス毎ニ一名ノ取扱者ト一名ノ助手ヲ増員スルヲ要ス

第二十 固定及移動鳩舎カ新位置ニ移動後少クトモ四日間總テノ鳩カ鳩舎附近ノ飛翔ヲ終リ且天氣良好ノトキニアラサルハ決シテ調教飛翔ヲ開始スヘカラス  
調教ノ度ハ漸ヲ追ヒ初メハ鳩舎ノ視界内ヲ飛翔セシム其ノ際食餌ヲ給セシテ飛翔セシムルモノトス  
四日間調教飛翔ヲ終レハ塹壕用ニ耐フルモノトス  
若氣候良好ナルトキハ新地區ニ於テ鳩ヲ使用シ得ルニ至ルニハ約二十日間ヲ要ス冬季天候不良ニシテ且鳩カ配偶セラレアラサルトキニハ約一箇月ヨリ五週間ノ日子ヲ許與セサルヘカラス

第二十一 鳩ヲ結著スルニハ鳩カ飛翔ノ際平衡ヲ失スル如ク一翼ヲ結束スヘシ翼ヲ結著スル方法ハ一翼ノ親羽ト第二羽ヲ注意シテ肩ヨリ腋下ニ紐ヲ以テ結ヒ飛翔ノ爲該翼ヲ廣ケ能ハサル如クス他ノ方法ハ親羽ト第二羽ニ軟石鹼ヲ厚ク塗抹スル法ニシテ此ノ方法ハ鳩カ四圍ノ狀況ニ馴致セルトキ温湯ヲ以テ容易ニ溶洗シ得ルヲ以テ便ナリ若兩翼ヲ結著スルトキハ不便ナカラ尙飛フコトヲ得ルモノナリ  
鳩ヲ結著シタルトキハ鳩舎内ニ於テ轉倒シアラサルヤ否ヤニ注意スヘシ若轉倒シアルトキハ大害ヲ惹



起スルコトアリ結著サレテ鳩地上ニ轉倒スルトキハ容易ニ猫及猛獸ノ犠牲トナル

### 第五節 鳩ノ取扱

第一 鳩ノ取扱ハ正規ノ方法ニ依リ教育セラレタル者ニ對シテハ甚タ簡單ナル業務トス其ノ注意スヘキ要點ハ鳩ノ取扱又ハ脚ニ通信書ヲ附著スル際ニ於テ鳩ノ飛翔ヲ害セサルコト、其ノ他ノ羽毛ヲ損傷セサルコト是ナリ

第二 鳩ヲ握ルニハ拇指ヲ鳩ノ脊ニシ食指ヲ肛門ノ下ニ、他ノ三指ヲ脚ノ前方胸部ニ當テ靜ニ鳩ヲ握ルヘシ其ノ方法ニ依リ脚ヲ食指ト中指ノ間ニ突キ出シ鳩ヲ靜肅ニ保持スルコトヲ得(第一圖参照)

第三 鳩籠ヨリ鳩ヲ他ニ移スニハ鳩ヲ確實ニ保持スルコトニ注意シ頭ヲ高舉スヘシ若他ノ方法ニテ取扱フトキハ騷擾シ易ク爲ニ其ノ羽翼又ハ尾羽ヲ損スルコトアリ

### 第六節 飼養管理

第一 鳩ノ飼料及飼養ニ關シテハ特筆スヘキ事項ナシ鳩ハ規則正シク飼養セラレ飼料ハ最良ノモノヲ一定量ニ給スルヲ要ス

第二 總テノ穀類ハ鳩ノ飼料ニ適スルモ就中良質ノ蠶豆、豌豆、玉蜀黍等ハ最可ナリ穀類ノ選擇ハ熟練ナル鳩取扱者ニ一任スヘシ而シテ選定セラレタル品種及見本ニ從テ嚴格ニ購買スルノ要アリ

第三 最善ノ飼養法トシテハ次ノ比ヲ以テ混合給與スルヲ可トス

蠶豆	五〇%
豌豆	三〇%
小玉蜀黍	二〇%

以上ノ混合給與ノ爲種々ノ穀類ヲ得難キ場合ニ於テハ蠶豆及豌豆ハ日量ノ全量ヲ使用スルモ妨ケナシト雖玉蜀黍ハ増量スヘカラス

第四 練習飛翔ヲ爲シアル鳩ハ一日五「オンス」ヲ以テ十分ナル日量トス出來得レハ日量ノ三分ノ一ハ日出後早朝ニ與ヘ三分ノ二ハ午後給與スヘシ

七十五羽ヲ飼養スルニハ穀類ノ二十一「ストーン」(「ストーン」ハ十四磅)ヲ要シ移動鳩舎ニ二十八日分ヲ準備ス而シテ補給ハ鳩舎自ラ行フヘシ

若モ移動鳩舎ニ於テ定數以外ニ幼鳩ヲ飼育セハ定量三分ノ一ヲ増給スルコト必要ナリ

第五 親鳩カ雛鳩ヲ飼育中ハ事實ニ於テ採食シ得ル丈ケノ量ヲ與ヘ其ノ外小麦、矢筈豌豆、「ダアリー」(Dairy)等ヲ食餌ニ混シ而シテ穀類ノ混合物ハ朝ニ、豆類ハ夕ニ給與スヘシ

第六 鳩カ永ク整潔等ニ抑留セラレアルトキハ通信ヲ發スル以前ニ飼料ヲ清潔ニシ規定ノ量以上ヲ給セサル如ク注意スルコト緊要ナリ若飼料カ鳩籠ニテ汚染セラルトキハ嚙糞ヲ害シ疾病ヲ惹起ス

第七 鳩ハ飼料ノ不足ヨリモ渴ニ苦ムコト甚シ故ニ屢新鮮清淨ナル水ヲ供給スヘシ各鳩籠ニハ水與器ヲ備ヘ屢之ヲ清潔ニスルノ要アリ

第八 飲水、飼料ノ外鳩ハ食餌ヲ咀嚼スル爲砂礫ヲ要ス鳩ノ消化機能ハ味囊ニ於テ食物ヲ軟化シ然ル後胃ニ至リ細碎セララルカ又ハ砂礫ノ助ケニ依リ嚥囊ニ於テ咀嚼セララルモノナリ

特種ノ砂礫ハ細碎セラレタル蠣殻、石灰、堅キ小石又ハ清潔ナル海岸ノ砂ヲ以テ混成ス細碎セル蠣殻及大量ノ岩鹽ハ鳩舎ニテ貯藏シ置クヲ要ス

第九 鳩羽ノ清潔ハ甚タ重要ナリ飛翼及尾羽不潔トナレハ(鳩舎又ハ鳩籠ニ於テ)鳩ハ正規ノ飛翔ヲ行フヲ得ス

第十 水浴ハ各季ヲ通シテ少クモ一週一回開放浴ヲ行フヘシ之カ爲二呎六吋平方、深サ四吋ノ浴場ヲ適當トス

第十一 食餌ノ給與ハ常ニ鳩舎内ニ於テ行フヘシ

第十二 好晴ノ日ニ於テハ一日少クモ二回ノ演習ヲ必要トス一回ハ鳩舎ノ外ニ於テ演習セシムヘシ飛翔セシテ休止スルコトヲ許ストキハ一ノ惡習慣ヲ養成シ通信ヲ携行歸來スル際其ノ歸著ヲ遅延セシムルニ至ル

第七節 鳩舎ノ標識

第一 固定、自動車、馬車ノ各鳩舎共番號ヲ附シ且金屬製標識環ヲ以テ各鳩ノ數及種族ヲ示シ各鳩ハ翼ニ符印シ其ノ所屬鳩舎ノ番號ヲ示ス即チMハ移動鳩舎(Mobile)ヲ、Sハ固定鳩舎(Stationary)ヲ、M.M.H自  
動車移動鳩舎(Mobile Motor)ヲ、Rハ徵發鳩舎(Registered Loft)ヲ、M.12ハ移動鳩舎第十二號ヲ、S.12ハ固定鳩舎第十二號ヲ、M.M.1ハ自動車移動鳩舎第一號ヲ、R.89ハ徵發鳩舎第八十九號ヲ示ス  
此ノ數ハ常ニ通信部長割當ツルモノトス

第二 移動鳩舎ハ構造同シキヲ以テ少數ノ鳩ハ歸來後自己ノ鳩舎ヲ誤ルコトアリ然レトモ所屬鳩舎ノ番號ヲ翼ニ符印シアルヲ以テ迷ヒタル鳩ヲ確メ其ノ固有ノ鳩舎ニ歸スコトヲ得翼ニ符印スル方法ハ佛國ノ軍用鳩勤務ニ於テ其ノ價值ヲ稱揚ス而シテ其ノ標識數ハ現在使用鳩舎ノ數ヲ採用スルヲ可トス

第三 各鳩舎ニ名簿ヲ保存シ各鳩ノ特徵及番號環ヲ一連番號ニテ記載シ又毛色、性(成長セル鳩ノ場合)及翼ニ符印シタル表徵等ヲ併記スルモノトス

第四 鳩ノ性ヲ區別シ能ハサル助手ノ爲雌雄ヲ區別スルヲ要ス之カ爲一般ニ尾ノ上方背部ニ赤又ハ青「インク」ヲ以テ著色シ雄ハ赤、雌ハ青ヲ以テ表示ス

第八節 鳩籠及運搬法

軍用鳩勤務ニ使用スル籠ノ形ニ左ノ如ク數種アリ

第一 塹壕用鳩籠ハ形小ニシテ長サ十二吋、幅十二吋、深サ十吋ニシテ隔壁ヲ有スルモノト然ラサル

第一編 戰時ニ於ケル英軍ノ軍用鳩用法



モノトノ二種アリ共ニ二羽ヲ收容シ戦線ニ於テ使用スルモノナリ

第二 集合鳩籠ハ二箇ノ房ヨリ成リ各房ハ隔壁ニ依リ區分セラレ長サ二十吋、幅十五吋、深サ二十吋トス而シテ最大限十六羽ノ鳩ヲ收容シ固定又ハ移動鳩舎ヨリ派出所ニ鳩ヲ運搬スル際之ヲ使用ス又派出所ヨリ尙前方ニ鳩ヲ送ルニハ塹壕用鳩籠ヲ用フ

若シ鳩ヲ永キ期間集合鳩籠ニ抑留セムト欲スルトキニハ多クモ八羽以上ヲ收容スヘカラス(此ノ場合ニ於テハ七日間抑留スルコトヲ得)鳩ハ廣キ籠ニ於テハ八乃至十日間抑留スルコトヲ得ルモ其ノ數ト目子ハ反比例ス

鳩ヲ放釋セムトスルトキハ豫メ或ル期間其ノ翼ヲ自由ニ使用シ得ル所ノ大ナル房又ハ室ニ入レ置クコト甚ク有利ナリ之ニ依リ放釋ノ際翼ノ凝固ヲ防止シ得ルモノトス

第三 騎兵用鳩籠ハ使用上特異ノ型ヲ有ス各騎兵用鳩籠ハ二房ニシテ重量輕ク乘馬者ノ脊ニ負ヒ携行シ得ル如ク騎者ノ肩ヨリ革條ヲ以テ固定シ其ノ位置ヲ保タシム

該籠ノ大サハ一般ニ幅十吋、深サ十八・五吋、長サ九・五吋ニシテ四羽ヲ收容ス

佛國式騎兵用鳩籠ハ尙小形ニシテ二羽ヲ收容シ乘馬者ノ背ニ負フ

第四 騎兵用トシテ尙適當ナル形狀ノモノアリ(次ニ記載スル如ク鳩ヲ包裝ス)即チ漁夫ノ用ウル脊負籠ノ如キモノニシテ一般ニ四角形ナルモノヨリモ乘馬者ノ脊ニ適合シ騎者ノ肩ヲ通シテ二條ノ革條ヲ籠ノ頂上ニ結著シ他ノ一本ハ籠ノ底部ニ在リテ乘馬者ノ腰ニ結著ス

第五 前項ノ場合ニ於テ鳩ハ鄭重ニ次ノ如ク包裝シテ收容ス即チ各鳩ハ紙片ヲ以テ卷纏シ然ル後之ヲ鳩ノ肩、翼ノ關節、脚ノ上ヨリ紐ヲ以テ結ビ包裝ヲ穿テ頭ヲ出シ呼吸ニ便ナラシム此ノ方法ニ依リ包裝シタルモノヲ籠内ノ薬上ニ胸部ヲ下ニシテ横タフ斯ノ如クセハ乘馬者ノ激動ニ對シテモ十二乃至二十四時間ハ何等ノ苦痛ヲ與フルコトナシ二十四時間ヲ經過セハ開放又ハ水飼、飼與ノ爲開包スヘシ而シテ通信ノ爲開放セムトスルトキハ必ス暫時開包シ且水飼スヘシ

第六 調教鳩籠ハ調教中ノ鳩ノ爲ニ用ウルモノニシテ特異ノ形狀ヲ有ス然レトモ集合鳩籠ヲ以テ代用スルコトヲ得

此ノ籠ハ鳩ヲ放タムトスルトキ鳩カ同時ニ飛出シ得ル如ク製作セラレ籠ノ大サハ同時ニ調教シアル鳩ノ數ニ應シテ異ルモ一般ニ長サ二呎九吋、幅一呎七吋半、深サ十一吋半ノモノニシテ二十五羽ノ鳩ヲ收容スルヲ便トス

第七 攻撃用鳩籠ハ攻撃ノ際ニ二羽ノ鳩ヲ運搬スル特種ノ目的ニ用ウ籠ハ柳細工ニシテ長サ十二吋、幅七吋半、深サ七吋ナリ而シテ此ノ籠ノ内ニ於テハ鳩ヲ十二時間以上留置スヘカラス

攻撃用籠ハ塹壕用鳩籠ニ代用スルヲ得ス  
板紙ノ一片ヲ隔壁トシテ籠ノ對角ニ置キ鳩ヲ頭部ト尾部トヲ對向シテ入ルルヘシ  
各鳩籠ニハ二組ノ通信用紙ト二箇ノ通信筒ト一本ノ鉛筆ヲ強固ナル「セルロイド」製ノ筒内ニ用意シテアリ故ニ此ノ籠ヲ携行スル兵卒死傷スルトキト雖他ノ兵卒代リテ此ノ材料ヲ使用シ得



第八 ●航空機用鳩籠ハ特種ノ構造ヲ要ス其ノ構造ハ鳩ヲ使用セムトスル航空機ノ性能ニ依リテ異ルモ  
玆ニ詳説スルヲ欲セス

第九 各籠ハ少クトモ水與ノ爲一箇ノ固定式或ハ著脱式ノ水與器ヲ備フ

第十 鳩ヲ籠内ニ決シテ群居セシムヘカラス是往々鳩ノ能力ヲ低下スルノ原因トナルモノナリ屢清潔  
ニシテ短切シタル鉋屑ヲ籠内ニ投與スヘシ

第十一 各種ノ籠ニ於テ雄ト雌トハ區別スルヲ要ス然ラサレハ雄ハ雌ノ羽毛ヲ甚シキニ至リテハ  
通信不能トナルコトアリ若性ヲ誤リテ記號(著色ニ依リ雌雄ヲ區分スル法)シアル場合ニ於テモ之ヲ  
判別スルニ難カラス

### 第三章 通信業務

#### 第九節 通信ノ書方

第一 各通信ハ陸軍規則書第四百十八ニ規定セラレタル書式ニ從ヒ明瞭且嚴正ニ記入スヘシ記載終レハ  
鄭重ニ折疊シ通信筒ニ挿入シ得ル如ク卷キ通信紙ノ一端ト雖通信筒外ニ出タスヘカラス且通信筒ノ蓋  
ハ完全ニ閉鎖スヘシ

第二 一通信紙ハ同一通信三通ヲ作成スルニ適シ一通ハ本簿ニ保存シ他ノ二通ヲ發信用トス  
若シ鳩ノ數十分ナルトキハ通信ノ二通ヲ同時ニ發送スルヲ可トス

第三 書式ノ宛名ハ通信班ニ依リ該通信書カ傳達サルヘキ受信所ヲ記入スルモノニシテ鳩カ通信書ヲ傳  
達スヘキ鳩舎名又ハ番號ヲ用紙ニ記入セサルモノトス

第四 部隊ノ各名稱ハ電信暗號ニテ記載スルヲ以テ往々之ヲ看過スルコトアリ殊ニ發信部隊ノ場合ニ於  
テ然リトス

若之ヲ嚴守セサレハ電信暗號ノ用法ハ無用ニ歸シ非常ナル危險ヲ醸スコトアリ何トナレハ鳩ハ往々其  
ノ進路ヲ迷ヒ敵陣地ニ下降スルコトアルヲ以テナリ

通信文ノ記載例ハ附録第四ニ示ス

第五 一般ニ地點ヲ示スニハ簡單ナル要圖ニ依ルヘシ之カ爲ニハ陸軍規則書第五百十三ノ様式ニ準據記  
入シ通信筒内ニ封入スヘシ

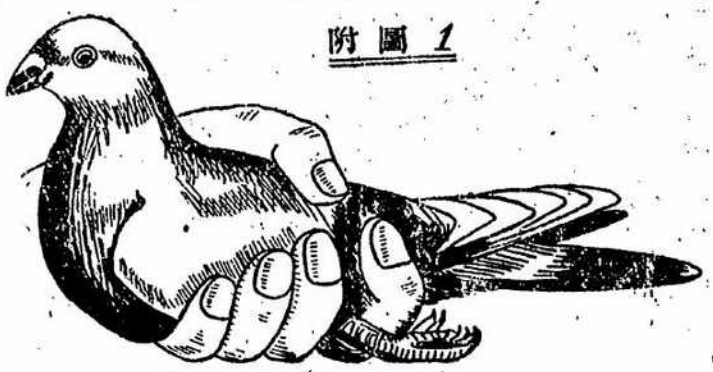
#### 第十節 軍用鳩ニ通信書ノ固定法

第一 鳩ニ通信書ヲ固定スルニ二法アリ

##### (一) 護謨環法

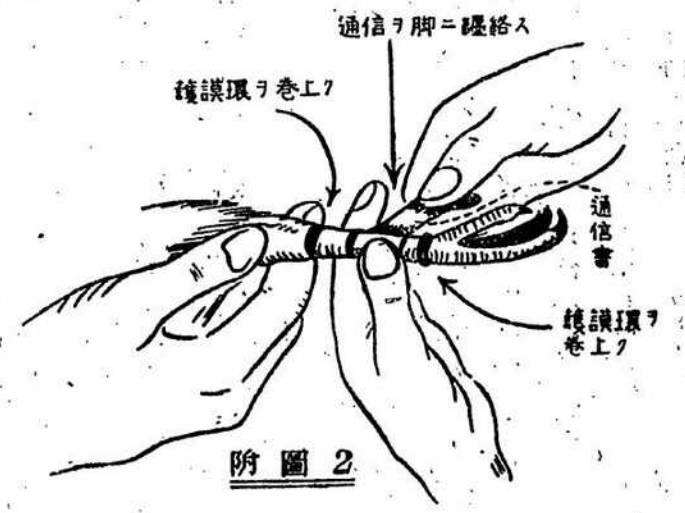
##### (二) 金屬筒法

第二 護謨環法ヲ用ウルトキハ既ニ護謨環ヲ條メタル鳩ノ脚ニ通信書ヲ卷キ付クヘシ護謨環ハ初メ脚ニ  
通信書ヲ卷キ付ケ得ル如ク上下ニ滑ラシ置クヘシ實施者ハ通信書ノ端ヲ左手ヲ以テ鳩ノ脚ト共ニ保テ  
右手ヲ以テ注意シツツ通信書ヲ鳩ノ脚ニ纏絡ス而シテ後注意シテ護謨環ヲ上下ヨリ滑ラシ通信書ノ位  
置ヲ固定ス此ノ方法ハ通信書ヲ安全ニ保ツノ利アルモ金屬製筒ヲ用ウルヨリモ操作困難ナルノ不利アリ  
依テ此ノ方法ハ已ムヲ得サルトキノ外助手ヲ利用スルヲ可トス



附圖 1

注意 若シ鳩カ騷擾シ又翼ヲ廣ケムトスルトキハ直ニ實施者ハ頸ト肩トヲ押ユヘシ然ラサレハ鳩ノ羽ヲ損傷シ又ハ尾羽ヲ損ス

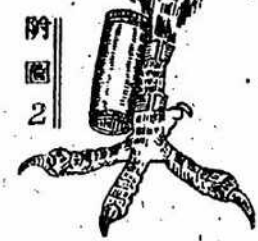


附圖 2

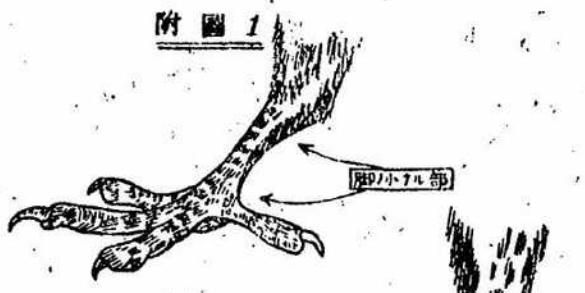
第一圖 手指ヲ以テ鳩ヲ保持スル正シキ方法ヲ示ス  
 第二圖 鳩ノ脚ニ通信書ヲ纏絡スル法ヲ示シ實施者ハ左手ヲ以テ鳩ヲ、右手ヲ以テ鳩ノ脚ヲ保持ス而シテ助手ハ圖ニ示ス如ク左右ノ手ヲ以テ通信書ヲ脚ニ纏絡ス

第三 金屬製通信筒(以下單ニ通信筒ト云フ)ノ用法ハ甚ダ簡單ニシテ現今多ク之ヲ利用ス通信筒ハ一アルミニウム「」ヲ以テ出來得ル丈ケ輕ク製作シ此ノ筒ハ蓋ヲ上方ニシ脚ノ内方膝ノ下方ニ箝メ之ヲ固著スルニハ筒ニ依リテ鳩ノ指ヲ壓迫セサル如クスヘシ若壓迫セハ鳩ヲ驚怖セシメ歸來ノ際鳩舎ニ入ルコトヲ妨クルコトアリ

筒ハ鳩ノ脚ニ固著スル前ニ安全ニ密閉スヘシ然ラサレハ蓋ヲ墜落シ通信紙ヲ紛失スルノ虞アリ筒ノ金屬性支脚ハ脚ノ細キ部分ニ固著セシムヘキモ過度ニ壓迫スヘカラス



附圖 2



附圖 1

第一圖ハ筒ヲ附セサル鳩ノ脚ヲ示シ矢ハ筒ノ支脚ヲ固定スヘキ部分ヲ示ス  
 第二圖ハ筒蓋ヲ上方ニシ脚ニ固著セシメタルヲ示ス  
 第三圖ハ筒ノ二部ヲ示シ(A)ハ筒ノ蓋トス  
 第四圖ハ通信書ヲ正シク密閉シタル筒ヲ示ス  
 第五圖ハ不適當ナル密閉法ニシテ筒蓋十分ニ挿入セラレス將サニ落チムトシ通信書紛失ノ虞アルモノ

第一編 戰時ニ於ケル英軍ノ軍用鳩用法



第一 各軍用鳩派出所ハ戰線ニ在ルト否トヲ問ハス軍用鳩ノ通信發送ニ關シ責任ヲ有シ大隊長又ハ中隊長ノ命令ニ依リテ其ノ位置ヲ選定ス該將校ハ陣中要務令第二部第十八條ニ示サレタル如ク各通信ヲ自ラ處理シ且鳩籠カ適當ノ場所ニ在ルヤ又相當ノ注意ヲ拂ヒアルヤ否ヤヲ監督スルノ責任ヲ有ス鳩ニ對スル些細ノ不注意モ鳩ノ良好ナル飛翔ヲ妨ケ又貴重ナル通信ノ價值ヲ減殺スルモノナリ

第二 軍用鳩派出所ヲ配屬セラレタル部隊他隊ト交代スル際ニハ其ノ裝備具ト共ニ派出所ヲ申繼部隊ニ申送ルヘシ

第三 鳩ニ依リ通信ヲ發送セムトスルトキニハ豫メ次ノ事項ヲ考慮スルコト必要ナリ

- イ 通信ノ重要程度
- ロ 使用シ得ヘキ鳩ノ數
- ハ 放釋シタル鳩ノ補充ニ關スル豫想
- ニ 通信カ他ノ方法手段ヲ以テ發送シ得ラルルヤ否ヤ

鳩ハ他ノ通信手段ニ依リテ成功ノ見込ナキトキノ外使用スヘカラス

第四 鳩舎ニ勤務スル鳩取扱兵ハ鳩カ歸來セハ携行セル通信ヲ取り時ヲ移サス其ノ通信ヲ受信地ニ移謀スヘク準備スヘシ

圖 三 第

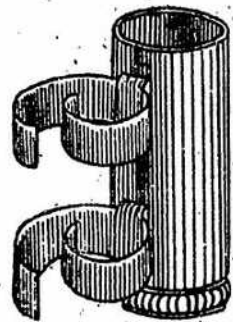
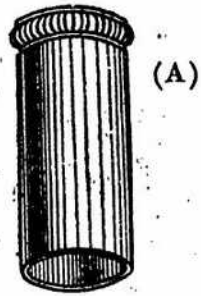


圖 五 第

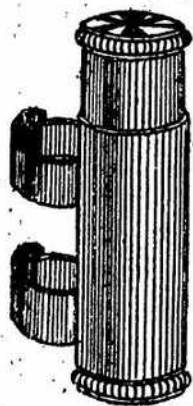
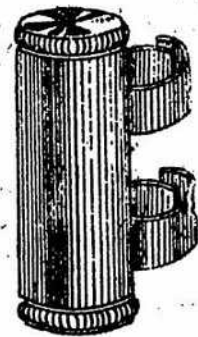


圖 四 第





第五 鳩舎ヨリ受信者ニ通信ヲ移牒スル業務ハ其ノ所管軍團通信部長之ヲ監督ス

第六 鳩ニ依リテ傳達セラレル多數ノ通信中(殊ニ塹壕ニ於テ)鳩舎ノ附近ニ通信所ナキ爲直ニ通信ヲ受信者ニ移牒シ得サルトキハ甚シク其ノ價值ヲ失墜スルモノナリ故ニ通信所ト鳩舎トノ間ニ電話又ハ電信ヲ架設スルヲ必要トス

鳩舎掛ノ兵卒ニハ通信ヲ移牒シ得ル如ク電信通信術ヲ教育シアルヘシ從テ特種ノ通信兵ヲ配屬スルノ必要ナシ

第七 秘密ヲ要スル場合ニハ出來得ル限り通信書ヲ小ナル管ニ入レ鳩ノ頸下嚙囊ノ中ニ之ヲ挿入ス而シテ目的地ニ達シタル後鳩ヨリ此ノ管ヲ摘出ス然レトモ此ノ方法ハ稍熟練ヲ要ス若野外ニ於テ射殺サレ又ハ死シタル軍用鳩ヲ發見シタルトキハ直ニ試驗ノ爲最寄ノ軍用鳩勤務本部ニ送致スルヲ要ス

第四章 英國出征軍ニ於ケル軍用鳩勤務ノ編制

第十二節 英國出征軍軍用鳩ノ用法

第一 鳩ハ電力通信不十分ナルカ又ハ破壊セラレタルトキニ於テ其ノ補助トシテ使用ス

第二 前記ノ理由ニ依リ通常鳩ハ軍團司令部ヨリ後方ニハ必要ナキモノトス

第三 教育完了セル鳩ノ各固定鳩舎ハ軍團司令部ノ轄下ニ之ヲ置ク

戰線地帯ニ在リテ軍用鳩通信ノ目的ニ適スル地方民ノ各種鳩舎ハ之ヲ徵發シ固定鳩舎トシテ使用ス

更ニ戰線ニ近ク移動セシムル爲移動鳩舎ノ應用起ルニ至レリ

第五 移動鳩舎ハ固定鳩舎ヨリモ多クノ利益ヲ有ス移動鳩舎ハ通常最前線ニ在ル師團司令部ニ位置スルモ尙前方旅團司令部ニ配屬シ非常ニ有利ナリ移動鳩舎ハ何レニ位置スルモ配屬セラレタル軍團ノ通信部長之ヲ統轄ス

第六 軍用鳩勤務ヲ編制スルニハ次ノ如クスルヲ最有利ナリトス

軍用鳩勤務ハ總軍通信部長之ヲ統轄シ總軍司令部ニ在ル軍用鳩勤務將校ハ總軍通信部長ノ命ヲ受ケ勤務上次ノ事項ニ關シ全部又ハ一部ノ責ニ任ス

イ 鳩ノ補充

ロ 鳩取扱ニ熟達セル人員ノ保持及補充

ハ 鳩ノ飼料補充

ニ 固定及移動鳩舎ノ準備及製作

ホ 全戰場ニ於ケル地方鳩舎ノ徵用及決定

第七 總軍司令部ハ鳩舎ヲ軍ニ配屬シ軍ハ之ヲ軍團ニ配屬ス軍ハ其ノ配屬及移動鳩舎ノ移動ニ就テ總軍司令部ニ報告スヘシ

補助鳩舎ハ總軍通信部長ノ外徴發スルヲ得ス

第八 軍通信部長ハ軍管内ノ軍用鳩勤務ノ處理、支持、改善、進歩、軍管内各軍用鳩ノ登録番號表等ニ對シテ責任ヲ有ス而シテ業務助手トシテ一名ノ通信將校ヲ軍用鳩勤務將校ニ選定ス

第九 各軍團ハ鳩舎ヲ有シ之ヨリ壘壕ニ鳩ヲ補充ス此等ノ鳩舎ハ軍團通信部長之ヲ統轄ス其ノ主ナル業務左ノ如シ

イ 軍團内ニ要スル鳩舎ノ數ヲ軍司令部ニ上申ス

ロ 軍團ニ配屬セラレタル鳩舎ニ於ケル幼鳩ノ調教

ハ 師團ニ對シ鳩ヲ供給スル鳩舎ノ配當

ニ 裝備具ノ請求及師團通信班ニ對スル補給

軍團通信部長ハ軍團ノ一通信將校ヲ軍團軍用鳩勤務掛ニ任命ス

第十 實務ニ從事スル爲軍團ノ鳩舎ヨリ部隊ニ鳩ヲ供給スル正規ノ方法次ノ如シ

裝備具、鳩籠、通信簿、通信筒等ノ定數ハ師團通信中隊ヨリ派遣セラレタル旅團通信班ニ配屬スル軍用鳩派出所ノ數ヲ標準トシテ算定ス

各派出所ハ教育セラレタル三名ノ兵卒ト必要ナル鳩籠等ノ裝備具ヲ有ス此ノ三名ヲ以テ旅團ニ於ケル二箇ノ前進軍用鳩通信所ヲ作ルニ十分ナリ即チ一箇所ニ一名ヲ配置シ第三者ハ通信所ニ鳩ヲ入レタル

籠ヲ運搬シ歸リニ空籠ヲ携行スル任務ニ服ス

若旅團ニ於テ通信所二箇以上ヲ必要トスルトキハ各步兵大隊ニ配屬シ在ル既教育兵ヲ採用ス此ノ目的ノ爲少クトモ既教育ノ軍用鳩取扱兵一名ヲ步兵大隊ノ各半中隊ニ配屬シ軍用鳩勤務ニ召集セラルル迄ハ一般兵トシテ服務セシム

各將校及傳令ト大隊通信手ノ半數ハ軍用鳩ノ使用及取扱ニ關シテ教育ヲ受クルモノトス軍用鳩勤務ノ廣汎ナル發展ニ依リ多數ノ既教育者ヲ準備スル爲鳩ノ使用及取扱ニ關シ左ノ割合ヲ以テ兵員ヲ教育スルコト必要ナリ

騎兵隊 各將校ト聯隊通信手ノ半數

砲兵隊 各中隊ニ將校二名ト傳令手四名

「タンク」隊 各大隊ノ將校全員ト少クモ各「タンク」ニ一名ヲ配屬スルニ十分ナル傳令手ノ數

機關銃隊 各中隊ニ將校一名ト傳令手四名

測量班 傳令手六名

各旅團軍用鳩派出所ニ配屬スル軍用鳩ノ數ハ鳩ヲ要スル業務ノ繁閑並開設スヘキ通信所ノ數ニ依リ變更スルモノトス

第十一 連續軍用鳩ヲ使用スル場合ニハ同時ニ壘壕ニ於テ要スル鳩ノ數ノ少クモ三倍ヲ準備スヘシ(此



ノ中ニハ死傷ニ因ル損失モ計上シアリ

鳩ヲ壘壕ニ二日間留置セシムルトキハ少クモ二日間休養セシムルヲ要ス依テ旅團ノ軍用鳩派出所ニ於テ絶エス前線ニ四羽ヲ要スルトセハ軍團ノ通信部長ハ所管ノ師團ニ配屬セラレタル鳩舎ヨリ該旅團ニ十二羽ヲ配屬スルヲ要ス然レトモ特ニ緊急ノ場合ニハ前記休養期間ヲ短縮スルコトヲ得ルモ此ノ休養期間ノ短縮永續スルトキハ鳩ノ能力ヲ阻碍スルモノナリ

第十二 鳩舎ヨリ旅團派出所ニ鳩ヲ送ルニハ成ルヘク集合鳩籠ヲ用ツヘシ

鳩舎ヨリ鳩ヲ屢前方ニ輸送スルニ甚シク困難ヲ感スル所ニ於テハ大ナル鳩舎ヲ作り其ノ中ニ數日間鳩ヲ留置ス

人カ起立シ得ル普通ノ室又ハ納屋等ハ以上ノ目的ニ利用シ得且集合鳩籠ヨリモ鳩ヲ拘束スルコト少ク室内ニ於テ飛ヒ得ルヲ以テ能力ヲ減殺スルコト亦少シ

第十三 飼料ト通信筒ハ鳩舎ヨリ鳩ト共ニ送付セラレ各鳩籠ニハ鳩舎ヨリ派出セラレタル日附ヲ記シタル貼札ヲ附ス

第十四 前方ニ在ル旅團司令部ニ鳩舎ヨリ鳩ヲ運フ爲各軍團ニ自動自轉車又ハ傳騎ヲ準備ス旅團司令部前進ニ際シ鳩ハ歩兵用鳩籠ニテ一籠毎ニ二羽ヲ入レ通信所ニ運搬スヘシ此ノ鳩籠ニハ四十八時間以上入レ置クヘカラス其ノ時間經過セハ放釋スルヲ要ス

第十五 鳩ハ必ス掩蔽物下ニ置クヘシ若泥土ヲ以テ羽翼ヲ汚染セハ飛翔ヲ妨クルニ至ル

第十六 軍團司令部ヨリ鳩ト共ニ送付セラレタル飼料ノ外一切他物ヲ與フヘカラス又鳩舎ヨリ派出セラレタル後二十四時間ハ食餌ヲ與ヘス夫レ以上ニ互ラハ日没三十分前一日一回「オンス」ヲ超エサル淡泊ナル食餌ヲ給スヘシ

第十七 各騎兵師團ハ四箇ノ軍用鳩派出所ヲ要シ師團通信中隊ニ配屬ス騎兵ノ鳩ハ軍團通信部長カ其ノ鳩ヲ派出セシメタル軍團鳩舎ニ歸來ス

第五章 航空機ヨリスル軍用鳩ノ用法

第十三節 要領

第一 軍用鳩ハ飛行中ノ航空機ヨリ使用スルコトヲ得其ノ場合ニハ金屬製ノ通信筒ヲ應用スルヲ可トシ第十節第三條ノ規定ニ準據シ固定スヘシ二、三十哩ノ距離ハ晴天ノ際一羽ノ鳩ヲ以テ確實ニ通信スルヲ得天候惡シキカ又ハ長距離ニハ通信ヲ二重トシ二羽ノ鳩ヲ使用スヘシ

第二 氣球又ハ飛行船ノ偵察ニ於テ鳩ヲ一日以上携行スルコトヲ得而シテ放釋スル迄ニハ食餌ト水ヲ一日二回給與シ飼與、水與ハ日出直後ヲ可トス其ノ後ハ放釋前ニ唯水ヲ與フレハ可ナリ

第三 鳩ヲ飛行機ヨリ使用スルニハ鳩ハ其ノ日ノ中ニ放釋スルヲ原則トス而シテ放釋ニ當リ鳩カ風ニ從ヒ飛ヒ得ル如キ方法ヲ講スヘシ之カ爲鳩ヲ手掌ニ確實ニ保持シ風向ニ沿ヒ側方下ニカヲ込メテ機體ヨ



リ遠サカル如ク投下スヘシ此ノ方法拙劣ナルトギハ危険ト尾羽ノ損傷等ヲ來タス虞アリ尙飛行機ノ飛行中鳩ヲ冷キ氣流ニ晒ササル如ク注意スルヲ要ス

第四 鳩ハ夜間、濃霧又ハ非常ニ險惡ナル天候ニ於テハ其ノ歸來不確實ナルヲ以テ眞ニ緊急ヲ要スルトキニノミ放釋スヘシ若強テ放釋シタル場合ニ鳩カ夜間ニ於テ安全ナル著陸地ヲ發見シ得ハ翌早朝再ヒ歸路ニ就キ得ルモノトス

第五 遭難セル水上飛行機ノ操縦者カ軍用鳩ニ依リテ救助セラレタルコトアリ水上飛行機ニ搭載シタル鳩カ通信ヲ携行セスシテ歸來セハ是不祥事ノ徵ト認ムヘシ  
飛行機ニ使用スル鳩ヲ運スニハ常ニ特種ノ構造ヲ有スル箱ヲ用ウ此ノ箱ハ輕キ木ヲ以テ作り二羽ヲ收容スル爲ニ房ヲ有ス

### 第六章 軍用鳩勤務ノ過誤

#### 第十四節 管理ノ失當

- 第一 戰場ニ於テ軍用鳩使用ニ際シ失敗ノ原因ト認メラレタル事項ヲ述フレハ次ノ如シ
- (一) 各部隊本部等カ軍用鳩派出所ヲ一定ノ指揮官ニ配屬セサリシヲ以テ通信ノ發送ニ對シ指揮官ノ責任確實ナラザリキ
  - (二) 豫メ特定ノ場所ニ鳩舎ヨリ鳩籠ヲ送りタルモ受領者ハ其ノ受領ニ對シ何等ノ準備手段ヲモ講セ

サリキ

- (三) 鳩籠ヲ旅團司令部ノ將校又ハ責任アル下士ニ交付セサリシ爲數日間放置セラレタリ
  - (四) 鳩舎ヨリ派遣セラレタル鳩ニ飼與、水與ヲ忘却セリ
  - (五) 鳩ヲ泥土汚染ニ放任セリ
  - (六) 通信亂書セラレ且時間ノ記入及將校ノ署名ナシ
  - (七) 勤務ニ耐ヘ難キ状態ノ鳩ヲ鳩舎ヨリ派出所ニ送付セリ
- (原則トシテハ調教不適ノモノヨリモ弱キモノヲ用ウル方ヲ可トスルモ之ニ關シテハ絶對ニ熟練ナル鳩取扱者ノ言ヲ尊重スヘシ若弱キモノ或ハ調教不適ノモノヲ使用セハ鳩ノ損失及通信紛失ノ比率ヲ非常ニ増加ス)

#### 第十五節 鳩及裝備具ノ損失

第一 確實ニ鳩舎ニ歸來スル如ク新シク鳩ヲ調教スルニハ數週ヲ要ス戰鬥中鳩ノ損失多キハ避ケ難キモ其ノ他ノ損失ハ一般ニ鳩ニ對スル無智ト組織ノ不備ニ歸因ス故ニ各種失敗ノ原因ヲ排除スルニアラサレハ長期ノ戰爭ニ際シ引續キ軍用鳩勤務ヲ確保スルヲ得ス

第二 材料ノ節約又緊要ナリ空虛ノ鳩籠、水與器等ハ機會アル毎ニ注意シテ鳩舎ニ還送シ又通信筒及通

信簿入靴、飼料其ノ他鳩籠用瓦斯防護囊ノ浪費ヲ慎ムヘシ物品、材料ノ補充モ亦常ニ容易ナルモノニアラス

三六

### 第十六節 鳩ノ疾病

第一 鳩カ犯サルル普通ノ疾病左ノ如シ

(一) 潰爛性口炎 口及咽喉ノ疾病ニシテ稍「チフテリア」ニ似タリ人類ニ傳染セス

(二) 普通感冒 放棄シ置ケハ化膿性加答兒ニ陥ル

第二 潰爛性口炎ハ一般ニ不良ニシテ微敗シタル穀粒ノ給與、腐敗シタルカ又ハ汚塵多キ水ノ給與及鳩舎ノ衛生失當ニ因リテ惹起ス療法ハ飼料ノ變更及硫酸曹達ノ緩下劑ヲ一週ニ三回投與(「ピント」  
三合強ノ飲水ニ「オンヌ」ヲ溶解ス)スレハ治癒スルコトヲ得而シテ善良ニシテ光澤アル消化シ易キ穀粒例ヘハ燕麥又ハ良好ナル「マップル」、「コース」(Maple Peas)ノ如キモノヲ與ヘ重キ蠶豆又ハ微敗良アル他ノ穀粒ノ給與ヲ避クヘシ

重症ノ際ニハ「グリセリン」二分ト過酸化鐵一分トノ混合劑ヲ小サキ駱駝ノ毛ノ刷毛ヲ應用シテ咽頭ニ塗付ス

第三 鳩ハ汗腺ヲ有セサルカ故ニ寒冷ヨリモ炎暑ニ苦ムモノトス若鳩ヲ鳩籠内ニ密集セシメ又氣温高ク群集スル鳩舎及換氣不良ノ鳩舎ニ長ク入レ置クトキハ直ニ感冒ニ犯サル

感冒 感冒ノ初期症候ハ肉垂ノ下ヨリ粘液ヲ漏出シ其ノ後眼ヨリモ亦粘液ヲ排泄シ一眼又ハ兩眼腫脹ス善良ナル療法ハ遲滞ナク原因ヲ排除スルコトニシテ鳩舎ノ換氣ヲ良好ナラシメ鳩籠内ニ於ケル群居ヲ避クヘシ

第四 若感冒初期ナルトキニハ排泄物ヲ朝夕温湯ト二%硼酸水ヲ以テ洗滌スルシ嚔囊空虚ナル朝ノ時期ニ於テ瀉利鹽ヲ投藥ス其ノ量ハ「シルリンク」一掬ニテ十分ナリ此ノ治療中食餌ハ輕ク消化シ易キ燕麥、細碎玉蜀黍、「カナリア」サート「實等」ヲ可トシ蠶豆ヲ避クヘシ

第五 片眼感冒(One eyed cold)ハ往々頑固ノ疾病トナリ初期ノ發現期ニ治療スルニアラサレハ二週間ヲ經過スルコトアリ

第六 頻繁且長ク鳩籠ニ留置スルトキニハ羽翼ノ強直ヲ發ス處置トシテハ緩下劑及善良ナル食餌ヲ與ヘ作業ヲ課セス廣キ鳩舎ニ休養セシムヘシ

第七 疾病ニ犯サレタル鳩ハ發見次第直ニ隔離スヘシ何トナレハ普通一般ノ疾病モ鳩ニ對シテ往々傳染性又ハ流行性ヲ有スルコトアリ

第八 原則トシテ鳩ノ治療ハ遲滞ナク實施スヘシ



附録

第一 固定鳩舎ノ器具材料

百羽ヲ有スル固定鳩舎ハ次ノ人員ト裝備具トヲ要ス

一 人員

鳩ノ取扱ニ熟達セル下士

助手タル兵卒

二 裝備具

塵 掻

浴 器

穀物箱

給水所

磨キ臼

集合鳩籠

D.R 鳩籠

鋤

一

一

一

一

二

二

四

四

二

一

(約二十分ノ二噸入)

(瓦斯防護囊及水與器八箇共)

(瓦斯防護囊及水與器二箇共)

長柄等  
桶  
水 鐘  
貼 紙  
耐風「ランプ」

尙五十乃至百羽ヲ増ス毎ニ助手一名ヲ増ス

第二 移動鳩舎ノ器具材料

六十乃至七十五羽ヨリ成ル移動鳩舎ハ左ノ人員ト裝備具トヲ要ス

一 人員

鳩取扱ニ熟達シタル下士

助手タル兵卒

二 裝備具

二十八磅入穀物箱

錫製水鐘

鋤

二

一

一

三

(小把)

一

一

一

一

六

一

第一編 戦時ニ於ケル英軍ノ軍用鳩用法

- 浴器 一
- 給水鐘 一
- 長柄簍 二
- 桶 二
- 給水所 四
- 塵搔 一
- 磨キ臼 一
- 柄木 一
- 集合鳩籠 二 (瓦斯防護囊及水與器八箇)
- D.R. 鳩籠 一 (瓦斯防護囊及水與器二箇)
- 携帶梯子 一
- 野戰電信用天幕 一
- 煖爐 一
- 貼紙 一 (小把)
- 耐風「ランプ」 二

第三 各司令部ノ器具材料

(一) 總司令部

一般ノ請求ニ應スル爲總司令部ニ保持スル裝備具次ノ如シ

- 集合鳩籠 四
- 騎兵用鳩籠 一二
- 歩兵用鳩籠 一二
- 通信筒 一〇〇
- 通信簿 一〇〇
- 複寫紙 一〇〇

(二) 軍團司令部

各軍團司令部ニ保持スル裝備具

- 集合鳩籠 一六 (イ)
- 歩兵用鳩籠 三六
- 通信筒 五〇〇
- 通信簿 三六

第一編 戰時ニ於ケル英軍ノ軍用鳩用法



- 複寫紙 三六
- 瓦斯防護囊 一一
- 小靴 二〇

(イ) 五日間八羽ヲ飼養スル爲

(三) 師團通信中隊本部

軍團内ノ各師團ニ配屬シタル通信中隊ノ保持スル裝備具 (ロ)

- 步兵用鳩籠 二四
- 通信筒 一四四
- 通信筒 一一
- 複寫紙 一一
- 瓦斯防護囊 一一
- 小靴 一一 (ハ)

(イ) 師團毎ニ六箇ノ軍用鳩籠派出所ヲ有スルモノトシテ算定ス

(ハ) 各小靴ハ通信筒一、通信筒八、二羽ニ付二日分ノ食餌ヲ包容ス

(四) 騎兵師團

騎兵師團ニ對スル裝備具

- 騎兵用鳩籠 八 (ニ)
- 佛國騎兵式鳩籠 三三三 (ホ)
- 通信筒 一五〇
- 通信筒 (A B 四一七) 三三三
- 複寫紙 三三三
- 小靴 三三三 (ハ)

(ニ) 四羽ヲ包容シ自轉車ノ踏板ノ後方ニ附シ運搬ス

(ホ) 騎兵聯隊毎ニ三、騎兵旅司令部毎ニ二ニシテ各鳩籠ハ二羽ヲ收容シ乘馬者ノ脊ニテ運搬ス

(ハ) 各小靴ハ通信筒一、通信筒八、二羽ニ付二日分ノ食餌ヲ包容ス

第四 通信文記載例

通信書書式

(陸軍規則書 四一八)

受信司令部名(何)

番	號	日	附	軍用鳩籠勤務
(七)	(一五)			

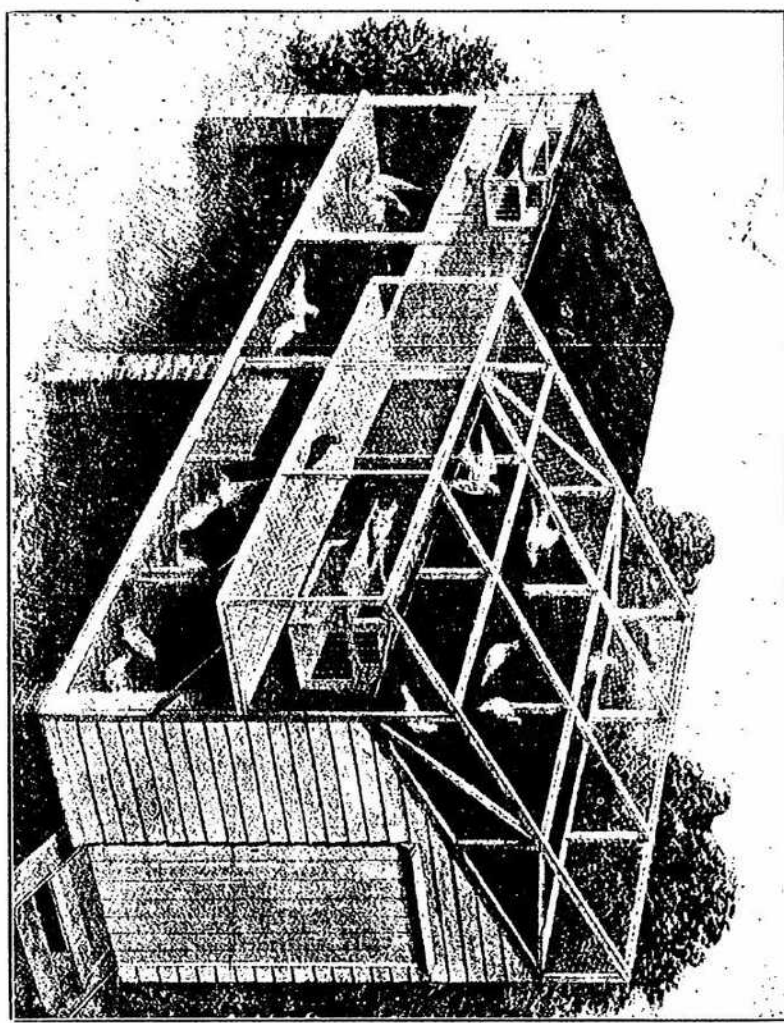
第一編 戰時ニ於ケル英軍ノ軍用鳩用法

大隊ハ目標ヲA.A.青線ニ取リタリ大隊ノ兵力ニテハ最早前進ヲ續行シ難シ前哨ノA.A.線ハA.A.青線ノ西北約五百碼ノ地點ニ設置シ陣地ヲ強固ニシツツアリ

四四

發	信		
場	所	(青線)	時
發信者署名	(中佐「ジョン、スミス」)		
間鳩舎ニ於テ受領ノ時		軍用鳩ニテ發送シタル通信數	(二通)

注意 括弧内ノ文字ハ發信ノ際記入スルモノニシテ其ノ他ハ豫メ印刷シアルモノナリ



各均定固ルセテテ臨時臨ル架橋ニ上屋後ルタクン動移ニ點地新



## 第二編 佛軍軍用鳩飼育法

### 第一章 緒言

諸子ノ茲ニ受領管理シ且其ノ教育ヲ施サムトスル軍用鳩ハ國防ノ爲貴重ナル補助機關タリ此ノ意味ニ於テ諸子ハ軍用鳩ヲ愛護スルノ義務ヲ有ス換言セハ軍用鳩ハ諸子ヨリ愛護ヲ受クルノ權利ヲ保有スルモノナリ

諸子ニシテ一度鳩ヲ知り其ノ美性ヲ認メ其ノ伶俐ト意志ノ力ト勇氣トヲ悟リタラムニハ諸子ハ從來鳩取扱者カ爲シタル如ク鳩ヲ愛シ且之ヲ賞揚スルニ至ルヤ疑ヲ容レヌ

軍用鳩ノ起源ヲ尋ネムニハ遠キ昔ニ遡ラサルヘカラス既ニ神話中ニモ「マルス」(宵ノ明星)ト「ヴェニス」(明ノ明星)ト鳩ヲ以テ通信ヲ交換シタル物語アリ又「ヘロドート」及「プリユタルク」等ハ古代埃及人、希臘人、羅馬人カ陣中ニ於テ鳩ヲ使ヒタルヲ説ケリ一歴史家ノ明言スル所ニ依レハ「ソロモン」王モ亦其ノ帝國內ニ命令ヲ發布スルニ一ニ軍用鳩ヲ用キタリト云フ

其ノ他鳩ハ古ヨリ郵便業務ニ從ヒ又舟乗ノ歸著スル數日前留守宅ニ之ヲ豫報シ或ハ野戰ト要塞戰トヲ問ハス陣中ニ用キラレタルハ明ナリ

紀元前四十二年伊國「モデー」ノ攻城ノ際軍用鳩ノ爲ニ守城ヲ全フセシ「グリーン」ハ誇テ曰ク敵將「アントアーン」ノ封鎖線モ其ノ攻城軍モ或ハ又河中ニ張リタル多數ノ網モ空ヲ翔ケレル吾カ軍用鳩ノ前ニ

ハ何ノ用ヲモ爲ササリシト

又羅馬人カ「ゴール」征伐ノ際ニハ鳩舎ヲ全戦地ニ配置シ軍用鳩ノ中繼遞送ニ依リ通信文ヲ羅馬ニ送レ  
中世紀ニ至リ佛國ニ於テモ諸外國ノ如ク鳩ヲ秘密ノ使トシテ陣營間並要塞間ニ用キタリ此等鳩舎ニシテ  
今日猶其ノ遺跡ヲ留ムルモノアリ

露國、伊太利、西班牙、埃及及亞細亞ニ於テモ鳩ハ右ト同様ニ龍用サレタルモノニシテ例ヘハ紀元千二  
百八十八年「エジプト」ノ「カイロ」ノ通信所ニハ千九百羽ノ鳩アリ「マクリジ」氏ノ説ニ依レハ王ハ旅行  
ノ際常ニ命令傳達用トシテ一籠ノ鳩ヲ携行セリト云フ

又「アジア」土耳其ニ於テモ千四百四十六年頃國王「スールエディン」ハ鳩ヲ以テ「バグダッド」帝國内ノ重要  
都市間ニ郵便業務ヲ再興スルニ努メタリ當時「バグダッド」ハ鳩ニ依ル通信線ノ要衝ニ當リ其ノ事務正確  
ニ行ハレタルカ如シ從テ軍用鳩ハ甚タ重要視セララルルニ至リ調教完全ナル軍用鳩ハ金貨千枚ニテ賣買セ  
ラレタリト云フ

降テ千七百七十四年和蘭國「レイド」市カ重圍ヲ受ケ守兵カ將ヲニ開城ニ決セムトセシトキ増援軍ヨリ鳩  
ノ齎ラシタル通信文ヲ受ケ増援軍ハ二時間行程ニ近接シアルコト並堤防ハ既ニ決潰セルヲ以テ敵ノ攻城  
軍ハ今ヤ水攻ニ依リ敗ルル外ナキコトヲ知リ爲ニ守城ヲ全フシタルコトアリ

佛蘭西革命ノ際廢后「マリー、アントアネット」ハ「タンブル」塔ニ幽閉セラレツツモ往復飛行ヲ訓練セル

一羽ノ軍用鳩ヲ用キテ其ノ顧問官トノ通信ヲ繼續スルコトヲ得タリ  
今ヨリ約百年前即チ千八百十五年英國ノ軍用鳩ハ「ウォーテルロー」ニ於ケル「ナポレオン」ノ敗戦ヲ「ロ  
ンドン」ニ知ラシメタリシニ他ノ都市ハ其ノ後三日ヲ經テ漸ク其ノ事ヲ知り得タリ其ノ後十數年間銀行  
家、仲買人、商店及新聞社等ハ迅速ニ通信スル爲鳩飼ヨリスル鳩借用ノ流行ヲ見タリ

千八百七十年普佛戰爭ノ際軍用鳩ハ其ノ歴史中ニ最顯著ナル事蹟ヲ遺セリ即チ巴里ノ攻圍ヲ受クルニ方  
リ巴里ト其ノ他ノ府縣殊ニ中央政府トノ間ニハ何等ノ通信法ナキニ至リシカ軍用鳩ニ依リ幸ニ通信ヲ繼續  
スルヲ得タリ最初「ワシントン」ト稱スル自由氣球ヲ以テ二十五羽ノ鳩ヲ當時中央政府ノ在リシ「トウ  
ル」ニ送り同年十月十七日始テ同地ヨリ公報ヲ鳩ニ托シテ巴里ニ送レリ其ノ結果良好ナリシヲ以テ十一月  
四日ニハ私信ノ通信ヲモ開始シ得ルニ至レリ故ニ巴里市ハ軍用鳩ニ對シ永遠ニ感謝ノ意ヲ表スヘキナリ  
這次ノ大戰間ニ於テモ亦軍用鳩カ偉大ナル功績ヲ擧ケタル例ハ之ヲ枚舉スルニ遑アラス幾多ノ戰士ハ軍  
用鳩ノ爲ニ生命ヲ全フシ又幾多ノ陣地ハ軍用鳩ノ齎ラセル情報ニ依テ守備ヲ全フシ或ハ敵手ヨリ之ヲ奪  
回スルヲ得タリ

然ルニ電信、電話、無線電信並回光通信ノ發達カ軍用鳩ヲ全然廢物タラシメタリト結論スルモノアルハ  
大ナル早計ニシテ或ル種科學ノ發達ニハ又之ニ反對スル科學ノ發達ヲ伴ヒ破壊的科學カ創造的科學ニ打



勝ツコトアルハ吾人ノ日常目撃スル所ニシテ實ニ創設的科學カ有線、無線ノ電信、電話、地中電信ノ如キ巧妙ナル通信機關ヲ設クルヤ之ニ反對スル科學的手段ヲ考案シ重要ナル作戰ノ時機及地帯ニ於テ敵ノ巧妙ナル通信法ヲ破壊擾亂シテ用ヲ爲サシメサルニ至レリ

理化學上ノ相反スル努力カ互ニ衝突スルトキ而モ其ノ衝突ノ巷ニ立チ超然天然ノ本能ヲ發揮スルモノニアリ即チ人ト軍用鳩ト是ナリ徒歩傳令ハ完全ナル精神的教育ト意志ノ力ニ依リ障礙ヲ打破シ軍用鳩ハ造化ノ妙ニ依リ構成セラレタル性能ト宏大ナル空間ノ利用ニ依リ科學ノ呈スル障礙ヲ意トセス其ノ能力ヲ發揮シ得ルモノナリ故ニ軍用鳩ノ利用ハ現代ニ於テ決シテ廢棄セラレルモノニアラス依然天賦ノ美質ニ相當スル位置ヲ保チツツアルノミナラス寧ロ新シキ方式ニ從ヒ時勢ノ要求ニ應シ益進歩發達ヲ加ヘタルモノト謂フヲ得ヘシ

鳩ニ關スル科學ノ進歩ハ前途尙遠達ナリ吾人ハ單ニ其ノ本能ノ若干ヲ不完全ニ了解シアルニ過キス鳩ノ知的性能カ那邊迄及フヤニ就テハ未タ全ク知ルニ由ナシト確言スルヲ憚ラス

若キ鳩ノ腦ハ如何ナル心的印象ヲモ止メ得ヘキ新規純朴ノ物質ナリト爲スハ誤解ニシテ遺傳性ニ依リ既ニ深刻ナル性能ヲ生レナカラニ所有スルハ幾多實驗ノ證明スル明瞭ナル事實ナリ而シテ此ノ特質アルカ爲教育ノ努力ノ限度ヲ見出スニ至レリ換言スレハ或ル鳩ニハ如何程教育ヲ加フルモ所望ノ結果ヲ得サルコトアリ

然レトモ一方ニ於テハ鳩ノ諸機關ニハ祖先傳來ノ良性ト特質トヲ有ス此ノ良性ト特質トハ教育ノ基礎ニシテ鳩ノ良好ナル教育トハ其ノ優秀ノ特質ヲ發達セシメ他ノ不良ナル特質ヲ中和スルニアリ

諸子ノ今ヨリ從事セムトスル業務ハ此ノ善良ナル鳩教育ナリ諸子カ從來座談等ニ得タル智識ニシテ次章以下ニ述ヘムトスル諸法則ト相容レサル點アラハ全然之ヲ腦裏ヨリ捨テ又地方ニ於ケル偏見者カ僅少ナル經驗ニ依リ鼓吹セル諸種ノ事項モ全然忘却スルヲ要ス此ノ如クシテ始テ效果アル業務ヲ遂行シ社會カ諸子ニ期待スル護國ノ任ヲ全フシ得ヘシ

## 第二章 鳩取扱者ノ責任及具備スヘキ性格

鳩取扱者ハ左ノ性格ヲ具備セサルヘカラス

温和、忍耐、意志ノ鞏固、用心深キコト、潔癖、思考力ニ富ムコト、觀察力ニ富ムコト、軍紀正シキコト

問 何故ニ温和ナルヲ要スルヤ

答 鳩ノ教育上缺クヘカラサル服従心ヲ鳩ニ求ムルニハ鳩取扱者ノ温和ナルヲ要スレハナリ

問 何故ニ忍耐力ヲ要スルヤ

答 温和ハ忍耐ト相俟テ始テ完全トナルモノナリ鳩ノ教育ヲ施スニ當リ中ニハ不從順ナルモノアリ然レトモ懇切ニ之ヲ導キ終ニ鳩取扱者ノ要求スル點ヲ會得スルトキハ始ニ不從順ト想像セラレタル鳩ノ

却テ他ノ鳩ヨリモ從順トナルコトアレハナリ

問 何故ニ意志ノ鞏固ナルヲ要スルヤ

答 鳩ヲシテ悉ク鳩取扱者ノ意志ニ屈服セシムルヲ要スレハナリ若鳩取扱者ノ意志堅固ナラサルトキハ

鳩ニ對シ權威ヲ失フニ至ル

問 何故ニ用心深キヲ要スルヤ

答 不用心ハ往々輕舉過失ヲ招來スルヲ以テ必ス細心ナラサルヘカラス

問 何故ニ潔癖ナルヲ要スルヤ

答 鳩ハ其ノ體重ノ小ナルニ拘ラス甚タ多量ノ空氣ヲ必要トスル動物ナリ故ニ鳩ヲシテ其ノ排泄物ノ腐

敗ニ汚染セル有害ナル空氣ヲ呼吸セシムルトキハ忽ニシテ體質ヲ損スルニ至レハナリ

問 何故ニ思考力ニ富ムヲ必要トスルヤ

答 鳩取扱者ハ常ニ左ノ語ヲ銘心スヘシ

「因アレハ果アリ」

觀察シ得タル諸現象ニハ悉ク因テ來ル原因アルヲ以テ之ヲ十分研究セサルヘカラス

問 何故ニ觀察力ニ富ムヲ要スルヤ

答 鳩取扱者ニシテ觀察ヲ怠ルトキハ必スヤ不成功ニ陥リ最甚シキ悔恨ヲ醸スモノナリ抑鳩ノ鳩舎ニ歸

ルノ性能ハ之ニ要スル諸因子ノ完備スルトキ始テ完全ニ發揮スルモノナリ故ニ鳩取扱者ハ一瞬ノ視

察ヲ以テ軍用鳩ノ健康ニ異狀ナキヤ體的諸能力ニ何等ノ障害ナキヤヲ察シ得サルヘカラス

問 何故ニ軍紀正シキヲ要スルヤ

答 軍カ鳩取扱者ニ對スル絕對ノ信用ト戰線ニ立タル戰友ノ鳩取扱者ニ對スル信頼トニ想到スルトキハ

鳩取扱者ハ義務遂行上些少ノ怠慢ヲモ許ササレハナリ

故ニ鳩取扱者ハ細心命セラレタル事項ヲ遵奉スヘク任務ノ命スル所ニハ喜テ之ニ赴キ軍全般ノ達ス

ヘキ協同目的ニ向ヒ奮進セサルヘカラス

### 第三章 鳩 舎

鳩舎ニハ衛生上並慰安上要スル諸條件ヲ備ヘ之ニ依リ鳩ヲシテ必要ナル體質上ノ抵抗力ト鳩舎ニ對スル

愛著心トヲ與ヘサルヘカラス移動式及往復鳩舎ニ於テモ亦然リトス

衛生上ノ爲ニハ左ノ諸件ヲ要ス

適當ナル方向、換氣法ノ完備、明取ノ十分ナルコト並清潔ナルコト

問 何故ニ鳩舎ノ向キハ衛生上ニ大ナル關係ヲ有スルヤ

答 鳩舎ニ濕氣ト寒氣トヲ入レサル爲鳩ノ出入口ニ風雨ノ吹キ込マサル如ク其ノ向キヲ定ムヘキナリ



(佛國北部ノ戰地ニ於テハ風多キ關係上入口ヲ東南ニ面セシムヘキ場合多シ)

問 何故空氣ノ流通宜シキヲ要スルヤ

答 如何ナル鳩舎ト雖用キ得ヘキ容積ヲ有效ニ利用スル場合ニハ鳩ノ日常生活ニ要スル空氣ノ不足スルヲ常トス

鳩ノ呼出空氣ハ酸素ノ不足ヲ來タシ反對ニ有毒瓦斯ヲ含ムモノナリ而シテ其ノ比重新鮮ナル空氣ヨリ著シク小ナルヲ以テ鳩舎ノ上部ヲ占ムルニ至ル鳩ヲシテ此ノ如キ空氣ヲ吸入セシムルコトハ危險ナル毒素ヲ以テ之ヲ殺害スルニ等シキモノトス

問 何故ニ明取リハ衛生ニ必要ナリヤ

答 太陽ノ光線ハ生活及温熱ノ源ニシテ之ニ依リ總テノ生活機關ノ働キヲ活潑ナラシムルノミナラス有

効ナル殺菌作用ヲ爲ス

問 何故ニ鳩舎ハ鳩ニ慰安ヲ與ヘサルヘカラザルヤ

答 鳩ノ鳩舎ニ歸ルハ強制的ニアラスシテ其ノ自由意志ニ依ルモノナルモ時トシテ大ニ其ノ努力ヲ要スル場合アルヲ以テ鳩カ進テ此ノ努力ヲ爲ス如クセシメサルヘカラス

若シ鳩カ鳩舎内ニテ他ノ好闘者ヨリ虐ケラレ又自己ノ巢ヨリ驅逐セラレ且其ノ習慣ヲ破ラレ自己ノ意思ニ滿タサルコトハミ多ク又旅行ヨリ歸レハ己レノ巢ハ他ノモノニ奪ハレ又ハ狼籍ヲ受クルカ如

キアラハ終ニ鳩ハ己レノ巢ニ對スル愛著心薄ラキ矢ノ如キ歸心ノ發生ヲ減少スヘキヲ以テ途中ニ或

ル障害ニ遭フモ強テ之ヲ犯シテ舊巢ニ歸ルコトヲ敢テセサルニ至ルモノナリ從來鳩ヲ失ヒタルハ概

ネ此ノ種ノ簡單ナル原則ニ注意ヲ拂ハサリシ結果ニ外ナラス其ノ他鳩取扱者ハ鳩ノ極メテ記憶力ニ

富ミ些少ノ印象ニモ感シ易キモノナルコトヲ常ニ銘心スルヲ要ス

第四章 軍用鳩

一日間ニ七百乃至九百吉米ノ長距離ヲ飛行シ又其ノ體質上及精神上ノ優良ナル點ヲ子孫ニ傳ヘ得ヘキ近代ノ軍用鳩ハ若干ノ特質ヲ有スルモノナリ

頭ハ「中高」(Convexe)ニテ額ハ横ト縦トノ二方向ニ發達シ後頭ハ後ニ發達ス

嘴ハ強大ニテ頭ニ善ク適合スヘシ

眼ハ距離ニ應シ視力ヲ變シ得ル如キ特性ヲ備フルヲ要ス優良ナル鳩ニ在リテハ瞬速ニ

シテ險筋ノ働キ活潑ニシテ力強ク瞳孔輝キ瞳ヨリ僅ニ前ニアルカ如ク見ユ瞳ハ險ニテ汎ク取り卷カレ色

鮮カニシテ晴朗ナル光輝ヲ放ツ眼ハ善ク其ノ意志ヲ現ハシ雄ニ在リテハ快濶ニシテ強ク雌ニ在リテハ雄

ヨリ優シク且活潑ナリ

首ニハ羽毛多ク雄ノ首筋ハ太シ

胸ハ稍廣ク且前方ニ突出ス



肩ハ強ク腰モ亦力アリテ且羽毛多シ

胸骨ハ堅固ニシテ前方ニ反張シ後方ニ至ルニ從ヒ締リ以テ腹部ノ大サヲ最少限タラシム

翼ハ強キ肩ニ緊著シ擴ゲタルトキハ僅ニ曲線ヲ成ス翼ノ親羽根ハ羽軸邊シクシテ長ク且輕シ子羽根ハ數

多ク且絹ノ如ク柔カナルヘシ而シテ親羽根ノ上ニアルモノハ恰モ屋根瓦ノ如ク次第ニ下ノモノヲ覆フヲ

要ス親羽根ノ下ニアルモノハ纖ク柔カニシテ飛翔間空氣ノ抵抗少キヲ要ス

坐骨ハ強ク且接合宜シキヲ要ス

尾椎骨ハ背ノ兩側ヲ劃スル線ノ延長上ニテ之ト適當ニ接合スヘク其ノ表面全部ニハ多クノ子羽根ヲ備ヘ

其ノ子羽根ハ纖ク且絹ノ如ク柔カナルヘシ

尾羽ハ餘リ長キヨリハ寧ロ短キヲ可トシ又善ク纏マリ一ハ他ノモノノ上ニ重ナリ基根部ニハ多數ノ子羽

根アリテ之ヲ蓋ヒ且動キ易ク屈曲自在ニシテ而モ強キ舵ノ作用ヲ爲ス

腿及脚ハ太ク筋張り爪ハ太ク緊リ且趾ノ中ニ善ク箱入スルヲ可トス

全身ニ互リ羽毛多ク且絹ノ如ク柔カナルヲ要ス

體重ハ雄ニ在リテハ四百二十五瓦乃至五百二十五瓦、雌ニ在リテハ三百八十五瓦乃至四百八十五瓦ノ間ニアリ

軍用鳩ノ呼吸機關ニハ飛翔間肺ヨリ供給スル空氣ノ滯囊ヲ備フ

此等ノ滯囊ハ左ノ三種ノ用ヲ爲ス

- (一) 各滯囊其ノ自身ト之ヨリ皮膚ノ下、筋肉ト筋肉トノ間及骨ノ内部ニ連絡スル不規則ナル空間トス

依リテ空氣ヲ全身ニ分布ス

- (二) 各滯囊ハ温メタル空氣ノ貯藏所ノ作用ヲ爲シ飛翔間諸筋肉カ多量ナル酸素ヲ要スルニ至ルヤ肺ニ還リテ其ノ補給ヲ爲ス

- (三) 鳩ノ比重ヲ減シ飛翔ヲ容易ナラシム

呼吸機關ノ良否ハ軍用鳩ノ價値ヲ著シク上下シ前記空氣滯囊ノ良好ナル發達ハ大ナル飛行ヲ爲スヘキ鳩ニ對シ缺クヘカラサル條件ナリ

羽ハ軸タル管ト之ニ附セル毛ヨリ成ル基部ニ近キ處ハ管ヲ成シ空氣ヲ通ス末端ハ Rachis ト言ヒ之ニ毛ヲ密生シ相互ノ間ニ附著スル Barbules ニ依リテ毛ト毛ヲ連接シアリ Rachis ノ附ケ根ニハ Hyporachis ト稱スル毛ノ小塊ヲ見ル

翼ノ羽中最重要ナルモノ左ノ如シ

第一次羽 (Primaries) ト稱シ一翼ニ十本アリ翼ノ手ヨリ生ユ

第二次羽 (Secondaire) ト稱シ一翼ニ十二本アリ翼ノ腕ヨリ生ユ

保護羽 (Tectrices) ト稱シ第一次羽及第二次羽ノ管ヲ掩ヒ以テ風雨ニ對シ之ヲ保護シ且常ニ之ニ抵抗力

ト屈曲ノ自在トヲ保タシム

尾羽 (Barries) ハ十二本ヨリ成ル之ニモ保護羽アリテ一部ヲ掩ヒ以テ一ニハ尾羽ヲ増カスルト共ニ基



部ノ保護ニ任スルモノトス

問 頭ノ形狀正シク中高ナラサル鳩ハ一概ニ退ケサルヘカラサルヤ

答 否初ヨリ一概ニ不良トシテ退クヘカラス頭ノ形カ前方ニ突出シタル鳩ニシテ優秀ナルモノヲ發見スルコトアリ此ノ特質ハ意志ノ強固ナル證據トナルモノナリ

問 眼ノ色ハ鳩ノ性質ト重大ナル關係アリヤ

答 否何等ノ關係ナク單ニ眼ノ色ハ血統ヲ現ハスニ過キス唯眼中ノ輝キハ競走的美質ノ特徴トシテ注意スヘキ値アリトス

色ノ何タルニ拘ラス其ノ色ノ深キモノハ其ノ子孫ニ傳ヘキ多量ノ血ヲ有スルコトヲ示スルモノナリ之ニ反シ光ナキ眼(かすみめ)ハ諸種ノ原因ニ依リ血種ノ漸次退却シツツアル徵ナリ但シ之ト「アントアープ」種ノ白澄タル眼トヲ混同スヘカラス後者ハ確ニ萬人ノ優良ト認ムルモノナレハナリ

問 何故ニ胸ハ廣ク肩ハ太ク腰ハ強ク胸骨ハ堅固ナルモノヲ要スルヤ

答 鳩ハ力士ニ比較スヘキモノナリ長時間苦シキ努力ヲ成シ遂クルニハ體格上若干ノ良質ヲ備ヘサルヘカラス

問 然ラハ大ナル鳩ハ中等以下ノ鳩ニ比シ常ニ優レリヤ

答 必スシモ然ラス「對照ノ良好」ナルハ鳩ノ選擇上最必要ナル事項ナリ鳩ノ骨格ハ其ノ翼ノ大サニ適合

セサルヘカラス熟練ナル鳩取扱者ハ鳩ヲ觸診シタルノミニテ其ノ特有ノ美質ヲ概ネ察シ得ルモノナリ是此ノ美質ハ常ニ完全ナル釣合ヒヨリ來ルモノナレハナリ

問 何故ニ概ネト言フヤ

答 何トナレハ種類ニ依リ斷定ノ不可能ナルモノアリ又此ノ法則ハ一般的ニシテ鳩ノ競走的美質ハ單ニ體質ノミニ基クモノニアラサレハナリ

問 鳩ノ毛色ハ其ノ能力ト何等カノ關係アリヤ

答 何等ノ關係ナク毛色ニハ何ノ意味モナシ唯目ノ色ト同シク血統ヲ現ハスモノニテ時トシテ四、五代後ニ至リテ先祖ノ毛色ヲ受繼クモノアリ

問 何故鳩ニハ羽ノ多キヲ貴フヤ

答 羽ハ鳩ノ體ニ必要ナル熱ヲ保チ又鳩ノ飛行間空氣ノ滑リヲ善クシ其ノ抵抗ヲ減ス但シ之カ爲ニハ羽ノ纏リ善ク且絹ノ如ク柔ナルヲ要ス

問 總テノ羽ハ悉ク同シ働キヲ爲スヤ

答 否體ノ羽ハ衣服ニシテ温熱ヲ保チ且風雨ニ對スル保護ヲ爲シ翼ノ外側ノモノ(第一次羽ト稱スルモノ)ハ舟ニ於ケル櫂ノ作用ヲ爲シ一ニ推進力ヲ起ス、翼ノ内側ノモノ(第二次羽ト稱ス)ハ一ノ支持面ヲ成形シ空氣中ニ於ケル鳩ノ支點トナリ以テ第一次羽ノ作用ヲ助ク

尾羽ハ舵ノ作用ヲ爲シ以テ飛行間鳩ニ方向變換ヲ爲シ得セシムルノミナラス上下舵トシテ鳩ノ希望ノ高サニテ飛行ヲ繼續シ得セシムルモノナリ

問 然ラハ鳩ノ昇ル高サハ一定ナラサルヤ

答 鳩ハ任務遂行間遭遇スル氣流ニ應シ其ノ高サヲ變ス晴天ニシテ風力追手ナルトキハ高ク昇ルト雖三百米ヲ超ユルコト稀ナリ風若逆風ナルトキハ僅ノ蔭ヲモ利用シ得ル如ク地面ニ近ク飛翔スルコト多シ

問 羽ノ抜ケ代リハ如何ニシテ行ハルルヤ

答 羽ノ抜ケ代リハ第一次羽ニ始マル其ノ季節ハ一般ニ四月末ヨリ十一月末ニ互ル

第一次羽ハ十本共年々抜ケ代ルモノニテ最小ナルモノ即チ外側ヨリ十本目ノモノヨリ始マリ約三週間宛ノ間ヲ置キテ外側ヨリ五本目迄逐次外側ニ及ホス而シテ或ル羽ノ落ツル時機ハ其ノ内隣ノ新シキ羽カ固有ノ長サノ半ハニ達シタルトキナリトス但シ外側四本ハ四週間宛ノ間隔ニテ抜ケ代ルモノトス尙其ノ落ツル時機ハ其ノ内隣ノ新シキ羽カ固有ノ長サノ三分ノ二ニ達シタル時機ナリトス右ノ翼ト左ト翼トニ於テハ同一順番ニアル羽ハ同時ニ落ツルヲ要ス若然ラサル場合ニハ鳩ノ健康ニ何等カノ障害アルモノトス

第一次羽ノ最初ノ六本抜ケ代ルヤ嘴ノ基部ヨリ始マリ次ニ全身ニ互リ換羽ノ行ハルルモノナリ

細心ノ注意ヲ以テ養ヒ完全ニ取扱ヒ從テ健康状態ニ異常ナキ鳩ハ毎年總テノ羽毛ヲ換羽スルモノトス但シ第二次羽ヲ除ク

第二次羽ハ一ニ年羽ト稱シ普通ノモノニ在リテハ之ニ依リ年齢ヲ鑑定シ得レハナリ此ノ羽ニハ一ノ特質アリテ毎年一本ツツ抜ケ代ル而シテ新ナル羽ハ在來ノモノヨリハ少シク廣ク且短ク其ノ先キノ丸ミ少シク大ナリ即チ之ト生レナカラニ有スルモノトハ容易ニ識別シ得ヘシ

尾羽ハ十二本中最内側ナル一對ヨリ始マリ逐次外側ニ左右各一本ツツ同時ニ落ツルヲ以テ此ノ換羽ノ全期間鳩カ飛行中舵ノ不平均ナラサル如ク行ハルルモノナリ

問 換羽セル羽ハ如何ニシテ判別シ得ルヤ

答 換羽セル羽ハ色鮮カニシテ光澤アリ且絹ノ如ク手觸リ善キモノナリ

問 完全ナル換羽ハ鳩ニ必要ナリヤ

答 換羽ハ天然ノ作用ナリ此ノ作用ハ鳩ノ健康状態完全ナルニアラサレハ行ハレス換羽ノ著シク遅レ又ハ止マルハ總テ何等カノ故障アルノ徴ト看做シ得ヘク從テ此ノ間特ニ此等ノ鳩ニハ監視ヲ行フヘキモノトス

問 健康ナル鳩ノ換羽ハ常ニ連續的ニ且故障ナク行ハルルモノナリ

答 換羽ハ遅レ又ハ早マルコトアリ



過早ニ雛ヲ育テシムルトキハ過早ノ換羽ヲ招キ之ニ反シ雛ヲ育テシムルノ時機遅ルルトキハ換羽モ亦從テ遅ルルモノトス一般ニ第一次羽中第一回ニ落ツルモノハ第二番雛ノ卵ヲ生シタル後行ハルルモノナリ而シテ第一次羽ノ抜ケ代リテ新羽發達シ行ク際ニハ其ノ育ツル雛鳩カ相當ノ大サニ達スルカ又ハ鳩カ更ニ次ノ卵ヲ生ム迄ハ隣リノ羽ハ落チサルモノナリ然レトモ換羽カ普通ノ順序通り遲速ナク行ハルルコトハ最希望スル所ナリトス何トナレハ若多數ノ第一次羽カ同時ニ落ツルコトアラムカ爲ニ長距離飛行ヲ不可能ナラシムル場合アレハナリ故ニ鳩取扱者ハ換羽ヲシテ正規ナラシムルニ努メ又翼ノ衣更ヘナスヘキ季節ニ達セハ特ニ取扱ニ注意ヲ加ヘサルヘカラス若羽毛ニ缺陷ヲ生ジ從テ適當ナル保護ヲ缺クトキハ鳩ハ旅行ノ爲最不利ナル状態ニ在ルモノト謂フヘシ

#### 第五章 軍用鳩ノ歸還スル本能

己レノ巢ヲ愛スルコトハ老若ト雌雄トヲ問ハス軍用鳩ノ通有性ナルモ年齢ノ進ムニ從ヒ益著シク又雄ハ所有權ノ觀念ヨリ雌ハ幼兒保育ノ本能ニ依リ特ニ然リトス交尾時期及鳩舎内ニ巢ノ配當ヲ爲ス場合ニハ新世帯ニ雄ノ選定セル巢ヲ與フルヲ可トス此ノ如クスレハ鳩舎内ニ於ケル平和ヲ保持シ得ヘシ

軍用鳩ノ歸還スル性能ハ先天的ニ依ル部分ト教育ニ依ル部分トノ合力ニ依リテ發達スルモノニシテ兩者

共ニ幾世紀ヲ通シ人類カ發達、變化並開拓利用シタルモノナリ

觀察力及記憶力ハ此ノ本能ノ要素ニシテ之ヲ他ノ二箇ノ感能力即チ方位ヲ定ムル力及視力ト密接ニ楔合セシメ茲ニ其ノ價值ヲ生セシムルモノナリ方位ヲ定ムルノ感能ハ他ノ動物ト雖若干備フルモノニテ鳥類ハ特ニ比較的多ク此ノ種本能ヲ有スルカ如シ此ノ感能ハ中耳内ニ其ノ根元ヲ存スルカ如ク即チ中耳ノ頂部ニ三箇ノ半圓形ヲ成セル管アリ若此ノ管ヲ損傷スルトキハ方位ヲ定ムル感能ヲ失フモノナリ

視覺ハ方位ヲ定ムル感能ノ「たしまへ」ニシテ軍用鳩ノ歸還スル本能ニ必要ナル補助感能タリ

視力不良ナル鳩ハ價值ナキモノニシテ鳩ノ眼ハ眼窠内ニテ頗ル活動スルモノニシテ眼ノ保護ニハ普通ノ險アリ開ケルトキニ黒眼ノ周圍ヲ包圍シ良ク角膜ヲ掩護シ必要ノ際雨戸ノ如ク上下ヨリ眼ヲ閉ツルコト周知ノ如シ此ノ他第二ノ險アリ (La Oligonante ト稱ス) 透明ノ膜ニシテ眼ノ前ヨリ後ロニ擴カリテ眼球ヲ覆ヒ飛翔間眼ヲ閉ツルコトナク眼球ヲ掩護シ得ルモノナリ

鳩カ遠距離ト近距離トニ應シ極メテ迅速ニ視度ヲ變シ得ルコト竝光線ノ強キ所ヨリ弱キ所ニ入り又ハ之ト反對ノ場合ニ於テモ眼ノ働キニ支障ナキハ眼筋ト虹彩トノ作用ニ依ルモノニシテ前者ハ隨意ニ水晶體ノ形狀ヲ變ヘ遠近ニ應スル影像ヲ適當ニ網膜ニ映セシメ後者ハ瞳孔ノ太サヲ任意ニ變シテ射入光線ノ量ヲ調節ス

眼ノ位置、其ノ形狀、運動、色、光澤、表情ハ鳩ノ價值、血統ノ關係並最著シキ觀念ヲ示スモノナリ

問 鳩ハ雄ト雌トニテ競走の價値ニ等差ナキヤ

答 無シ然レトモ雌ハ雄ニ比シ競走の飛行ヲ行ヒ得ル場合少シ例ヘハ産卵數日前ノ如キハ雄ヨリ追ハレ

體力消耗シアリ又産卵後二、三日間モ疲勞ノ状態ニ在リテ若干休養セシムル必要アリ

問 雄カ不在ノトキハ雌ニ對シ如何ナル注意ヲ要スルヤ

答 雌カ卵ヲ抱キツツアル時機ニハ二日間、狀況ニ依リテハ三、四日間之ヲ放棄スヘシ

若巢ヲ去ラムトスル様子ヲ見タルトキハ左ノ處置ヲ取り成功ヲ見ル場合多シ

雄ハ一般ニ午前十時ヨリ午後五時ノ間卵ヲ抱クモノナルヲ以テ此ノ間ハ雌ヲ鳩舎ヨリ出シ黄昏ニ至

リ再ヒ巢ニ入ラシム但シ雌ノ巢ニ歸ル前數分間他ノ鳩ヲシテ巢ヲ温メ置カシメサルヘカラス又卵ニ

ハ印ヲ附シ雌ノ不在間他ノ鳩ノ處ニ持チ行キ抱カシメ置クヘキヲ要ス此ノ如クスルトキハ雌ハ己レ

ノ卵ニ對スル愛情變ルコトナク又雄ノ不在ニ就キ煩悶スルコトナシ

鳩取扱者ハ特ニ注意ヲ加ヘ他ノ雄カ來リテ空圍ヲ守レル雌ヲ巢ヨリ追ヒ出ササル如ク監視ヲ要ス若

雌カ一羽又ハ二羽ノ雛鳩ヲ育ツルトキハ雄ノ不在間雌ノミニテ哺育スルモノナリ然レトモ己レノ巢

ヲ奪ハムトスル隣リノ鳩ノ爲心ヲ痛ムルコトナキ様大ナル注意ヲ要ス若騷カシキ鳩アリテ強テ我カ

意ヲ貫カムトスル場合ニアリテハ若干時間(巢ニ不在スルモ支障ナキ期間)之ヲ監禁スルヲ可トス

雛鳩相當ニ生育スルトキハ雌ハ他ノ雄ヲ求メムト欲ス此ノ場合ニハ之ヲ巢ニ閉チ込メ食餌ノ際ノミ

自由ヲ與フ是雄カ出先ヨリ歸リ來リテ落膽シ從テ鳩舎ニ對スル愛著心ヲ殺クコトナカラシムカ爲

問

自由ヲ與フ是雄カ出先ヨリ歸リ來リテ落膽シ從テ鳩舎ニ對スル愛著心ヲ殺クコトナカラシムカ爲

シ防禦ヲ爲

ヲ繼續スル

完全ナル教

スルヤ否ヤ

部

一英佛軍ノ軍用鳩ニ就テ

○ 大正 十一年 十月

○ 配賦標準票

○ 軍用鳩ハ天然ニ方向ヲ定ムル感能ヲ有シ此ノ感能カ鳩舎ニ還ルニ必要ナル一要素ナルモ之ト同シク

重要ナルモノアリ就中觀察力及記憶力ハ最重要ナルコト前條ニ明言セシカ如シ

命セラレタル演習ヲ實施シ秩序的ニ飛行ヲ行ヒ適當ナル調教ヲ施スコトハ教育ノ綱領ナリ

問 軍用鳩ハ如何ニシテ方位ヲ定ムルヤ



問 鳩ハ雄ト雌トニテ競走の價値ニ等差ナキヤ

答 無シ然レトモ雌ハ雄ニ比シ競走の飛行ヲ行ヒ得ル場合少シ例ヘハ産卵數日前ノ如キハ雄ヨリ追ハレ

體力消耗シアリ又産卵後二、三日間モ疲勞ノ状態ニ在リテ若干休養セシムル必要アリ

問 雄カ不在ノトキハ雌ニ對シ如何ナル注意ヲ要スルヤ

答 雌カ卵ヲ抱キツツアル時機ニハ二日間、狀況ニ依リテハ三、四日間之ヲ放棄スヘシ

若巢ヲ去ラムトスル様子ヲ見タルトキハ左ノ處置ヲ取り成功ヲ見ル場合多シ

雄ハ一般ニ午前十時ヨリ午後五時ノ間卵ヲ抱クモノナルヲ以テ此ノ間ハ雌ヲ鳩舎ヨリ出シ黄昏ニ至

リ再ヒ巢ニ入ラシム但シ雌ノ巢ニ歸ル前數分間他ノ鳩ヲシテ巢ヲ温メ置カシメサルヘカラス又卵ニ

ハ印ヲ附シ雌ノ不在間他ノ鳩ノ處ニ持チ行キ抱カシメ置クヘキヲ要ス此ノ如クスルトキハ雌ハ己レ

ノ卵ニ對スル愛情變ルコトナク又雄ノ不在ニ就キ煩悶スルコトナシ

鳩取扱者ハ特ニ注意ヲ加ヘ他ノ雄カ來リテ空園ヲ守レル雌ヲ巢ヨリ追ヒ出ササル如ク監視ヲ要ス若

雌カ一羽又ハ二羽ノ雛鳩ヲ育ツルトキハ雄ノ不在間雌ノミニテ哺育スルモノナリ然レトモ己レノ巢

ヲ奪ハムトスル隣リノ鳩ノ爲心ヲ痛ムルコトナキ様大ナル注意ヲ要ス若騷カシキ鳩アリテ強テ我カ

意ヲ貫カムトスル場合ニアリテハ若干時間(巢ニ不在スルモ支障ナキ期間)之ヲ監禁スルヲ可トス

雛鳩相當ニ生育スルトキハ雌ハ他ノ雄ヲ求メムト欲ス此ノ場合ニハ之ヲ巢ニ閉チ込メ食餌ノ際ノミ

自由ヲ與フ是雄カ出先ヨリ歸リ來リテ落膽シ從テ鳩舎ニ對スル愛著心ヲ殺クコトナカラシメムカ爲  
ナリ

問 雌ノ不在ハ巢ニ殘レル雄ニ苦痛ヲ與フルヤ

答 若其ノ不在短キ場合ニハ何等ノ苦痛ナシ是雄ハ他ノ鳩カ自己ノ巢ニ理不盡ナル侵入ニ對シ防禦ヲ爲

スノ力アレハナリ

然レトモ雌ヨリハ速ニ根氣ノ薄ラクモノナリ又雛ヲ哺育中ナレハ雌ノ還ル迄ハ一意哺育ヲ繼續スル

モノナリト雖其ノ配偶者以外ノ雌ハ之ニ近ツケサルヲ可トス

問 軍用鳩ハ教育ヲ施ササルモ使ヲ爲シ得ルモノナリヤ

答 小距離ニテ天候良好ナル場合ニ於テハ然リ然レトモ之ニ十分ノ能力ヲ附與セムカ爲ニハ完全ナル教

育ノ力ニ俟タサルヘカラス勿論鳩ハ遺傳性ニ依リ多少ノ能力ヲ備フルモ之カ價値ヲ發揮スルヤ否ヤ

ハ多クハ其ノ教育手段ノ良否ニ關ス

軍用鳩ハ天然ニ方向ヲ定ムル感能ヲ有シ此ノ感能カ鳩舎ニ還ルニ必要ナル一要素ナルモ之ト同シク

重要ナルモノアリ就中觀察力及記憶力ハ最重要ナルコト前條ニ明言セシカ如シ

命セラレタル演習ヲ實施シ秩序のニ飛行ヲ行ヒ適當ナル調教ヲ施スコトハ教育ノ綱領ナリ

問 軍用鳩ハ如何ニシテ方位ヲ定ムルヤ

答 現今ノ程度ニ於ケル科學ニテハ單ニ想像說ニ過キス

鳩ノ方位ヲ定ムル感能ハ生レナカラニ有スルモノナリ此ノ事項ハ何人モ明言スル所ナルモ之ヲ著シク發達セシムルモノハ演習ノ力ナルハ又萬人ノ異論ヲ插マサル所ナリ

教育ヲ受ケタル鳩ハ例ヘハ南ヨリ北ニ四百吉米旅行セハ數日後ニ於テ北ヨリ南ニ向ヒ歸還シ得ヘキモ教育ヲ施ササル鳩ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

此ノ感能根元ノ中耳内ニアルハ前述シタル所ノ如シ然レトモ單ニ之ノミヲ以テハ效果ナク鳩ノ鳩舎ニ歸還スルハ其ノ有スル各種ノ手段、素因ノ微妙亂スヘカラサル楔合ニ依ルモノナルハ次ノ證明ニ依リ明ナリ

視力不完全ナル軍用鳩ハ價值ナシト雖視力ハ鳩ノ出發ニ對シテハ何等ノ價ナシ何トナレハ地球ハ弧形ナルカ爲鳩ヲ放チタル所ヨリ鳩舎ヲ透視シ得ルモノニアラス然ルニ若干ノ軍用鳩ハ千二百乃至千五百吉米ノ旅行ヲ果セリ其ノ他軍用鳩ハ鳩舎ニ還ルニ一直線路ヲ取ルニアラサルコトニモ注意ヲ要ス又教育ヲ施セル鳩及優良種ノ鳩ハ夜間モ亦旅行ヲ行ヒ得而シテ之ニハ毫モ月明ノ必要ナク從來全然暗黒ノ夜ニ於テ好成績ヲ收メタルコトアリ

故ニ鳩ハ方角ヲ定ムル爲ニハ眼ノ必要ナシ然レトモ重ネテ一言スヘキハ視力不完全ナル鳩ハ價值ナク原則トシテハ拾ツヘキモノナリ

問 大氣ノ狀態ニ依リ鳩ノ歸還ノ妨ケラルルコトアリヤ

答 霧ノ場合ニハ方角ヲ定ムルコト甚タ困難ニシテ路ヲ見出スコトモ容易ナラス故ニ此ノ如キ場合ニハ鳩ヲ放タサルヲ可トス

他ノ困難例ヘハ雪カ地面ヲ覆ヒタル場合ノ如キハ若シ鳩カ其ノ以前毎日ノ如ク其ノ土地ヲ飛行シ觀察ヲ十分ニ遂ケアル場合ニハ(此ノ條件ハ必須ナリ)霧ニ比シテハ容易ニ成功シ易キモノナリ

問 然ラハ鳩ヲ放ツハ如何ナル天候ニテモ差支ナキヤ

答 軍用鳩ハ單ニ鳩舎ニ歸還スルヲ以テ満足スルコトナク其ノ大ナル速度ヲ要求セサルヘカラス大氣ノ狀態ニ依リテハ無益ニ鳩ヲ疲勞セシメ遂ニハ時トシテ鳩ノ氣力ヲ消耗シ歸還ヲ思ヒ止マルカ如キ惡結果ヲ醸スコトアリ

濃霧、雨、雪、猛烈ナル向ヒ風モ亦鳩ヲ放ツニ適セサル天候ナリ

問 鳩舎ノ位置、其ノ經度、緯度、高度、氣候ハ軍用鳩ノ能率ニ大ナル關係アリヤ

答 鳩ハ善ク寒氣ニモ暑氣ニモ堪ヘ如何ナル土地ヲモ氣候ヲモ厭ハス然レトモ時ト場所ノ如何ヲ問ハス衛生上ノ注意ヲ要ス

### 第六章 軍用鳩ノ食料

總テ發動機ヲ働カサトスルニハ燃料ヲ要スルカ如ク動物ノ働カトスル爲ニハ食物ヲ要ス燃料ハ燃燒



スルノミニテ可ナレトモ食物ハ動物ト同化シ得ルモノナルヲ要ス  
 動物ハ若干時間ハ食物ヲ取ラスシテ生活シ得是體內ノ貯藏物質ニ依リ營養ヲ續ケ得レハナリ  
 軍用鳩モ亦此ノ原則ニ從ヒ勢力ノ豫備ヲ貯ヘ以テ所要ノ任務ヲ遂行シ得サルヘカラス  
 鳩取扱者ハ鳩ノ強健ナル各機關ノ組織及之ヲ維持シ得ヘキ食糧ニ就テ熟知セサルヘカラス尙其ノ機關ノ  
 働ヲ完カラシムル爲食糧ノ調節ヲ爲スコト必要ナリ

軍用鳩ノ食糧中ニハ左ノ三要素ヲ備ヘサルヘカラス

窒素化合物

含水炭素

脂肪

此ノ外鳩ハ體質上礦物鹽ヲ要ス適宜ノ清水モ亦必要缺クヘカラサルモノナリ  
 窒素化合物ハ主トシテ左ノ穀類中ニ求メ得ヘシ面シテ其ノ含有量左ノ如シ

- 蠶豆(小) 二四%
- 鳩豆 二五%
- 扁豆 二四%

豌豆 二三%

含水炭素ヲ最多量ニ有スル穀物左ノ如シ

- 米 七三%
- 玉蜀黍 六六%
- 小麥 六五%
- 大麥 六四%

脂肪ハ左ノ植物ノ子實中ニ多量ニ含有ス

- 菜種 四〇%
- 亞麻 三五%
- 麻ノ實 三〇%

適當ナル鳩ノ食糧ニハ左ノ二要件ヲ具備スルヲ要ス

- 一 食物ハ完全ニ消化シ且同化シ易キコト
  - 二 食物ノ成分ハ鳩ノ諸機關ノ需要ニ適合スルコト
- 脂肪質ノ食糧ヲ完全ニ消化セシメムカ爲ニハ窒素化合物ト適宜ニ配合シ其ノ量全食量ノ三十「プロセン  
 ト」ヲ超過セサルコト必要ナリ

鳩ノ諸機關ノ需要ニ應スヘキ含水炭素ノ量ハ鳩ノ年齢、大氣ノ温度及鳩ノ要求スル勞力ノ難易ニ依リテ異ルモノトス

軍用鳩ノ食糧ハ前述各種穀類ノ含有物ヲ顧慮シ又蠶豆、鳩豆、扁豆及豌豆ハ概ネ二十五「プロセント」ノ窒素化合物ヲ有スル外尙含水炭素五〇「プロセント」ヲ含ムモノトシ略左ノ配合比ヲ適當トス

蠶豆 日量ノ 四〇%

鳩豆 同 三〇%

玉蜀黍 同 三〇%

此ノ外加給品トシテ

亞麻實 一〇%

米 五

ツ與フ

蠶豆、鳩豆、扁豆及豌豆ハ全日量ノ七十「プロセント」ノ範圍内ニ於テ彼此其ノ配合ヲ變スルモ差支ナシ全日量ハ季節ニ應シ鳩ノ勞働ヲ顧慮シ鳩一羽ニ對シ三十五乃至四十五瓦トス

尙一週ニ一、二回青物ヲ與フルヲ可トス其ノ種類ハ水菜ヲ最良トシ苜蓿(「チンヤ」)之ニ亞ク

問 何故食物ノ完全ナル同化カ軍用鳩ニ必要ナリヤ

答 何トナレハ鳩カ受ケタル任務ヲ果スニ必要ナル精力ヲ最良ノ状態ニ貯藏スルヲ要スレハナリ

問 如何ニシテ此ノ同化ヲ爲サシメ得ヘキヤ

答 品質良好ノ穀物ヲ前述ノ比例ニ配合スレハ可ナリ

問 品質良好ノ穀物トハ如何

答 品質良好ナル穀物ハ微臭ナク好ク乾燥シアリ鳩ニ與フヘキ穀物ハ此ノ如キモノニ限ルヲ可トス然ラ

サレハ數箇月ヲ費シ養成セル鳩ヲモ數週ニシテ失ヒ折角ノ苦心モ水泡ニ歸スルコトアレハナリ

問 輸送中變敗セル穀物ハ精選スルモ尙使用シ得サルヤ

答 一概ニ棄捨スルニ及ハス微敗ノ形跡アルモノハ少量ツツ(二吉瓦以下)他ノ袋ニ移シ數分間之ヲ震盪

シタル後之ヲ空氣ニ曝スヘシ日光ヲ當テ得レハ更ニ可ナリ

穀物ハ時トシテ袋ノ移リ香ヲ受クルコトアリ此ノ場合ニハ乾燥セル場所ニ其ノ穀物ヲ擲ケ屢之ヲ攪

拌シテ臭氣ヲ去ルヘシ

濕氣ヲ帶ヒタル穀物又ハ乾燥不十分ノモノハ麻布上ニ極メテ薄キ層ニ擲ケ直接日光ニ曝ストキハ堅

ク且碎ケ易クナルモノナリ

如何ナル場合ニ在リテモ鳩ニ之ヲ與フル前穀物ヲ篩フヲ要ス



問 何故鳩ニハ適宜ニ水ヲ與ヘサルヘカラサルヤ

答 水ハ穀物ヲ破碎スルニ必要ナレハナリ而シテ水ハ適宜ニ之ヲ飲マシメサルヘカラス何トナレハ如何ナル生物モ鳩ノ如ク適度ニ水ヲ飲ムモノナケレハナリ

問 總テイ水ハ鳩ニ適スルヤ

答 鳩ハ純良ノ水ヲ與ヘサルヘカラス是不潔ノ水中ニアル有害物ハ循環器内ニ入り鳩ノ健康ヲ害スレハナリ故ニ水ヲ與フル器ハ管ニ鳩ノ排泄物ノ入ラサル如クスルノミナラス日々底迄清洗シ水ハ食時毎ニ取り代フルヲ要ス

又水ハ甚タ吸收力ニ富ミ空氣ヲ汚濁スル瓦斯ヲモ忽チ吸收スルモノナルコトヲ忘ルヘカラス

問 水ニ依リ血液ノ清淨法ヲ行ヒ得サルヤ

答 水ハ最之ニ適スル溶劑ナリ盛夏ノ候ニハ水ニ重炭酸曹達ノ少量ヲ加ヘ濕氣多キトキ又ハ嚴冬ノ頃ニハ少量ノ明礬又ハ硫酸鐵ヲ加フ

問 食餌ノ分配法如何

答 食餌ハ一定ノ時刻ニ量ヲ代ヘテ與フヘシ即チ日中一乃至二回輕キモノヲ與ヘ主食ハ夕刻トス

問 鳩ノ消化可良ナルカハ如何ニシテ鑑定ヲ得ヘキヤ

答 消化可良ノ鳩ノ糞ハ堅ク球形ニ近ク且大ナル白斑ヲ有ス

問 鳩ノ消化不良ナルコトハ如何ニシテ認め得ヘキヤ

答 總テ消化不良ノ鳩ハ下痢ヲ催ス之ニ對スル最良ノ手當ハ絶食トス

絶食ハ肝臟ノ分泌ヲ盛ナラシメ其ノ膽汁ニ依リ腸ノ清淨ヲ行ヒ得レハナリ

問 鳩ノ食糧ニ必要ナル礦物鹽ハ何レニ求メ得ヘキヤ

答 鳩ノ營養ニ適スル穀物類ニハ總テ三乃至六「プロセント」ノ礦物鹽ヲ含ム此ノ外鳩ノ食糧ヲ完全ニスルニハ鹽化「ナトリウム」(食鹽)ト石灰鹽トヲ要ス故ニ總テ鳩舎ニハ常時鳩ノ取り得ル如ク鹽類ヲ含ム箱ト岩鹽一塊トヲ備フルヲ要ス右鹽類ヲ含ム土ニハ生燒キノ柔キ煉瓦ヲ細末ニセルモノヲ交フヘシ其ノ細末ハ胃ノ前室(嚥囊)ノ壁ヲ傷ケサル爲先ノ尖リタルモノ又ハ及形ヲ成セルモノナキヲ要ス煉瓦ノ粉ハ其ノ含メル炭酸石灰ノ化學作用ニ依ル外其ノ理學的作用ニ依リ嚥囊内ニ行ハルル碎磨作用ヲ助クルモノトス蠟殼及玉子ノ殼モ亦多量ノ磷酸石灰ヲ含ミ骨ノ組織上必要ナルモノニシテ鳩ノ食糧ニ適ス

問 何故ニ鳩ニハ窒素化合物ヲ多量ニ含メル食物ヲ必要トスルヤ

答 窒素質ノモノハ身體ノ組織及補給ニ必要ナル要素ヲ供給ス

窒素化合物ヲ多量ニ含メル穀類ハ軍用鳩ニ重要ナル諸性質即チ筋肉ノ力、氣力、腦力ノ發達ニ對シ必須缺クヘカラサルモノナリ

此等ノ穀物ハ甚タ滋養ニ富ミ筋纖維ヲ發達セシメ消化器ノ内容ヲ減シ而シテ飛行ノ機能ニ必須缺ク  
ヘカラツル筋肉系統及呼吸系統ニ大ナル發達ノ餘地ヲ與ヘ得

問 體力補給ノ爲ニ尙他ノ方法アリヤ

答 沐浴ノ如キハ有力ナル一手段ナリ之ニ依リ鳩ニ力ヲ與ヘ屈伸ヲ自在ナラシメ又羽ヲ汚染セル總テノ  
物質ヲ除去シ得若鳩舎内ニテ沐浴ノ方法ナキトキハ鳩ハ何レカニ於テ衛生上ノ顧慮ナキ入浴ヲ試ム  
ルニ至ルヘシ故ニ鳩ニハ春季ハ一週二回、冬季ニハ氣温ノ許ス毎ニ入浴ヲ爲サシムヘシ困難ナル旅  
行ヨリ歸レル鳩ニハ成ルヘク其ノ翌日入浴セシムルヲ可トス

問 何故含水炭素ヲ多量ニ含メル食物ハ鳩ニ適スルヤ

答 含水炭素ハ鳩ノ筋肉ニ其ノ消費セル物質ヲ供給ス又其ノ殘餘ハ脂肪ニ變化シ他日必要ノ生セルトキ  
消費サルヘキ豫備トナルモノトス

問 脂肪ヲ含メル穀物ハ如何ナル作用ヲ爲スヤ

答 脂肪ハ温熱ノ發生ニ必要ナリ脂肪ハ之ト同重量ノ窒素化合物又ハ含水炭素ニ比シ二倍半ノ温熱ヲ發  
ス

問 礦物鹽ハ何ノ效能アリヤ

答 礦物鹽ハ身體ノ組織及同化ニ必要ナルモ精力ノ上ニハ何等ノ價值ナキモノトス

鹽化「ナトリウム」ハ消化液ノ分泌ヲ促シ消化力ヲ盛ニス石灰鹽ハ骨ヲ強メ骨格ヲ鞏固ニス

問 雛鳩ノ育テ方如何

答 卵ノ殻ヨリ出テタル後三、四日間ハ一ニ兩親鳩ノ哺育スル淡黃色ノ乳汁ヲ以テ養ハル其ノ後此ノ分  
泌液ニハ漸次穀物ヲ交ヘ來リ第八日目頃殆ト穀物ノミトナル第二十日目ニ至ラハ若干ノ小粒ナル穀  
物ヲ巢ノ中ノ兩親鳩ニ與フルヲ要ス雛鳩ハ親鳩ノ之ヲ啄ムヲ見テ之ヲ摸倣スルニ至ル  
雛鳩若良質ノモノナレハ第二十二日ニ離巢ヲ行ヒ得ヘシ何レニシテモ離巢ハ第二十五日ヲ超ユヘカ  
ラス是以上ニ置クモ何等ノ利益ナキモノナリ

離巢ノ第一日ニハ雛鳩ハ「ツアヤキ」時トシテハ採食ヲ拒ムコトアリ此ノ場合ニハ夕刻嘴ヲ押シ開ケ  
若干ノ穀物ヲ入レ水入レノ前ニ持チ行クトキハ暫ク水ヲ飲ムニ餘念ナシ翌日ニ至リ餓ヲ覺ユレハ採  
食シ數日ノ後ハ體形モ變リ行キ發育モ親ト同居シアリシトキニ比シ著シク速ナルモノナリ其ノ後天  
候快晴ノ時沐浴ヲ行ハシムヘシ雛鳩ハ喜テ之ニ浴シ以テ發育ヲ旺ナラシム

### 第七章 演習ノ必要

總テ筋肉ノ運動ハ呼吸機關、循環系統並神經系統ノ作用ヲ強ムヘキ生理的效果ヲ伴フ  
飛行間筋肉ノ活動ハ延テ呼吸機關ノ運動ヲ旺ニシ呼吸ノ強サヲ増シ且其ノ數ヲ増加ス從テ體內燃燒ノ速  
度ヲ早メ消化機能ヲ旺盛ナラシム又筋肉ノ活動ハ心臟ノ働キヲ盛ニシ從テ又血液循環ヲ亢進セシメ體內



毒素ノ排泄ヲ迅速ナラシム

筋肉ヲ鍛錬スル演習ハ二ノ結果ヲ顯ハス即チ器械的ナルト共ニ生理的ナリ何ヲ以テ器械的ナリト云フヤ他ナシ此ノ演習ハ力ヲ増シ且屈伸ノ自在ヲ生スレハナリ何ヲ以テ生理的ナリト云フヤ他ナシ筋ノ刺激性ト神經ノ刺激性ヲ増セハナリ之ニ反シ長ク運動ヲ廢スルトキハ筋ノ頹弛ヲ來タシ終ニハ萎縮退化ヲ起スニ至レハナリ

要スルニ演習及調教ハ生活機能ヲ旺ナラシメ且能力ノ増進ヲ促スモノナリ然レトモ之ト同時ニ筋肉ノ運動ハ精力ヲ消費シ且之ニ相當スル酸素ヲ消耗シ運動ノ繼續ニ伴ヒ筋肉ノ疲勞ハ逐次累加スルニ至ル

凡ソ筋肉ノ疲勞ハ其ノ運動ニ比シテ呼吸ノ作用迅速トナリ從テ燃燒スヘキ酸素ノ不足ヲ生シ機關内ニ毒素蓄積シ來ル之ヲ消散セシメ體內ノ均衡ヲ恢復セムニハ休息ヲ必要トス是休息ハ血液内ニ蓄積セル炭酸瓦斯ヲ排除シ酸素瓦斯ノ作用ニ依リ筋肉ノ刺激性ヲ恢復スレハナリ

神經系ノ疲勞ハ注意力ノ度ト作業カ知的感能ヲ煩ハスノ度ニ比例シ現ハルモノナリ之ニ反シ自働的(衝動的)ノ運動ハ疲勞少キモノナリ

休息ハ神經系及筋肉兩方面ノ疲勞恢復ノ爲必要ナリト雖過度ニ長期ノ休憩ヲ與フルトキハ折角演習鍛錬ニ依リ得タル體力ヲ減少スルニ至ルモノトス

以上述フル所ニ依リ軍用鳩ノ體力、腦力ノ發達ハ著シク演習訓練ノ手段方法ニ關係スルコト深ク又軍用鳩ニ課スル勞働ハ規則正シク漸進的ニシテ且中絶スヘカラサルコトヲ了解シ得ヘシ

問 何故軍用鳩ニ課スル勞働ハ規則正シキヲ要スルヤ

答 演習ノ規則正シキコトハ生理衛生上必要ナル一要件ナリ是軍用鳩モ他ノ生物ト同様ニ天然ノ諸法則ニ支配セラレハナリ若長時間安逸ニ流レムカ生活機能ノ弛緩ヲ來タスヘシ常ニ鳩固有ノ體力ヲ保存セシメ置クヘキノミナラス之ヲ益發達セシムルノ必要アリ

又軍用鳩ノ機關ハ通常一日間ニ飛行シ得ル最大距離ニ適應スルノ特性ヲ有スト雖又狀況ニ依リ變化セサルニアラス故ニ鳩取扱者ハ鳩ヲ最良ノ状態ニ保育シ機關ノ抵抗力ヲ増大スルコトニ努力スヘシ而シテ此ノ目的ヲ達スルニハ規則正シキ演習ハ食料衛生ト共ニ必要缺クヘカラサル條件ナリ

問 何故演習ハ簡ヨリ繁ニ入ラサルヘカラサルヤ

答 演習ニハ二箇ノ目的アリ即チ教育及筋肉ノ鍛錬發達ヲ促スノ二トス順序ヲ踏マサル演習ヲ鳩ニ課スルハ恰モ兒童ニ加ヘ算ヲ教ヘスシテ直ニ乗ケ算ヲ教ユルニ等シ小學教育カ其ノ教育課目ヲ序ヲ逐ヒ組成セラレアルカ如ク軍用鳩ノ教育モ亦之ト同様ニ易ヨリ難ニ簡ヨリ繁ニ進マサルヘカラス

筋肉ノ鍛鍊モ亦之ト同原則ヲ適用セサルヘカラス曩ニ軍用鳩ヲ力士ニ譬ヘタルカ此ノ點ニ於テモ亦同様ニテ逐次ノ鍛鍊ヲ加フルニアラサレハ最大ノ能力ヲ發揮スルモノニアラス扱テ此ノ天賦ノ最大能力ヲ發揮スルニハ之ニ至ルニ先テ過勞セシムヘカラス若此ノ原則ヲ無視スルトキハ筋肉ノ均衡性ヲ失セシメ從テ又全身諸機關ノ均衡ヲ失フニ至ル故ニ總テノ諸演習ハ此ノ理由ヨリスルモ順序ヲ追フテ之ヲ實施セサルヘカラス即チ長距離ノ飛翔距離ヲ増大セムトセハ鳩カ之ヨリ短少飛翔ノ後大ナル疲勞ヲ認メサリシモノニ限り漸次飛翔距離ヲ延長スヘシ

問 何故ニ演習ハ中絶セサルヲ要スルヤ

答 鳩ニ課スル演習ハ鳩ニ完全ナル健康ト可成ノ嚴格ナル教育ヲ與ヘ且體力ノ發達ヲ促スニアリ凡ソ鳩カ軍用鳩タル任務ヲ有スル間ハ之ニ日課的飛行ヲ必要トスヘク又組織的ニ反復スル諸演習ハ其ノ中止ヲ許サス此ノ如クニシテ筋肉ノ力ヲ保持シ諸感能ヲ昂メ諸能力ヲ絶エス發揚セシムルコトヲ得ルモノナリ

第八章 病氣—手當

鳩會ノ衛生法、食料衛生並前述ノ諸法則ニ善ク適合スル日課的演習ハ鳩ヲ疾病ヨリ豫防シ得ルヤ論ハ然レトモ鳩モ亦他ノ生物ト同シク一般的法則ノ支配ヲ免ルルヲ得ス或ル原因ニ依リ身體ノ抵抗力減スル

トキハ機關ハ防禦手段ニ一部ノ缺陷ヲ生シ衰弱ヲ來タスヘシ是ニ於テ病源ハ其ノ欲スル所ヲ占領シ病的戰鬥ヲ開始ス其ノ病ニハ一般普通病モアリ又傳染病モアリ而シテ之ヲ初發ノ時機ニ微細ノ徵候ニ依リ發見シ以テ大災厄ニ陥ラシメサラムカ爲ニハ鳩取扱者ハ屢鳩ヲ手ニ取り觀察力及熟考力ノ全部ヲ傾注シテ細心視察スルヲ要ス

鳩カ脊ヲ丸クシ頭ヲ下ケ眼ヲ閉ツルトキ、羽毛光澤ヲ失シ體ニ密著セサルトキ、羽ニ有スル白キ細粉(脂氣アルモ手觸ニテハ感セス此ノ粉ハ羽ニ著ク水ヲ彈クノ用ヲ爲ス)カ體ヨリ落チ其ノ補充附カサルトキハ既ニ罹病セル徵候ナリトス然ルトキハ其ノ鳩ハ直ニ隔離シ精力ヲ盡シ根氣善ク看護ニ手ヲ盡スヘシ  
若傳染病ノ疑アルトキハ直ニ石灰乳ヲ以テ鳩舍ヲ消毒スヘシ石灰乳ニハ其ノ「リットル」中ニ十分ノ「リットル」ノ硫酸石灰又ハ珈琲匙二杯ノ石炭酸ヲ加フルヲ可トス  
鳩ノ疾病ノ大部ハ消化器系統ニ屬ス(其ノ他炎症、病毒傳染、中毒モアリ)故ニ直ニ輕キ重炭酸曹達ヲ加ヘタル牛乳ヲ以テ養フヘシ

牛乳ハ最良ノ消化劑ニシテ而モ二、三日間鳩ヲ養フニハ十分ナル滋養ヲ有ス  
左ニ鳩ノ主ナル疾病及之ニ對シ一般ニ用ウル療法ヲ述ヘム



病名	原因及病症	療法
寒胃(鼻風邪) Rhinette	傳染性ニシテ原因ハ濕氣、 激キ氣流、氣候ノ激變トス、 鳩ハ嘔ヲ爲シ鼻孔ヨリ液汁 ヲ洩ラス其ノ液汁ハ病症ニ 依リ異ル 此ノ病氣ハ三期ニ區別シ 得、 第一期 鼻孔ヨリ濃キ鼻 汁ヲ垂ス 第二期 濃汁鼻孔ヲ塞ク 第三期 黄バミタル粘液 鼻孔ヲ塞キ眼險腫レ上 リ涙グム	第一期寒胃ニ罹リタリト認メタル鳩アルト キハ鳩舎内ニ一切氣流ノ起ラサル如クスヘ シ鳩舎ニ入ルル度毎水槽ノ水ヲ取り代フヘ シ(日々少クモ六、七回) 飲水ニハ「リットル」ニ付六「グラム」ノ硫 酸鐵ヲ加フヘシ 第二、第三期 之ニ罹レル鳩ハ隔離スヘシ 四十八時間ハ水ノ外與フヘカラス水ニハ「 「リットル」ニ八「グラム」ノ硫酸鐵ヲ溶解ス ヘシ 夏季ナレハ鳩ヲ太陽ニ曝シ冬季ナレハ温室 ニ入ルヘシ 温キ鹽水ニテ眼、嘴、鼻孔ヲ洗フヘシ(鹽 ハ四分ノ「リットル」ノ水ニ玉蜀黍粒程ノ 鹽二粒ヲ溶解ス) 第三日目ニ至リ米ト小麦トヲ以テ輕キ食餌 ヲ與フ全快ノ後ニアラサレハ常食ヲ與フヘ カラス

鼻疽 Morte	原因及病症	療法
鷓口瘡 Muguet	傳染性強烈ニシテ最恐ルヘ キ病氣ナリ 他ノ鳩トノ接觸ニ因ル場合 アルモ鳩舎ノ不潔ト不良ノ 食餌ニ依リ自發スル場合モ アリ 症候ハ寒胃第三期ニ類スル モ鼻孔ノ粘液青味ヲ帶フル コトニ依リ直ニ辨別シ得殊 ニ嘴ト鼻孔トノ甚シキ惡臭 ヲ放ツコト及眼ノ充血シテ 曇リヲ呈スルハ其ノ特徴ナ リ 嘴ノ内膜上ニ黄色ノ肉芽ヲ 生シ鳩ノ呼吸ヲ困難ナラシ ム 原因ハ不潔ノ穀物ヲ嚙下シ 又ハ飲水ニ含メル微生物ノ 消化器ニ附著スルニ因テ生 ス傳染速ナリ	之ニ罹リタル鳩ハ臭氣ニ依リ既ニ疑ハシト 認ムレハ悉ク殺シ深ク地中ニ埋メ又ハ火葬 ニ附スヘシ 遲滞ナク鳩舎、巢及籠ヲ石炭酸又ハ「クレ ゴール」ニテ消毒スヘシ 水槽ハ沸騰セル湯ニ鹽酸二〇「プロセント」 ヲ加ヘテ丁寧ニ洗フヘシ 病ニ罹レルモノヲ隔離ス水槽ヲ沸騰水ニ鹽 酸二十「プロセント」ヲ加ヘタルモノニテ消 毒ス 肉芽ノ色濃黄色ヲ呈スルニ至ラハ小ナル 「ピンセット」又ハ「マツチ」ノ軸ニ卷キタル モノ(出血セシメサル爲)ヲ以テ之ヲ取り除 キ全快ニ至ル迄一日二回宛患部ニ筆又ハ羽 ヲ以テ「ヨヂウム」ヲ幾ヲ塗布スヘシ「ヨヂ ウム」ヲ幾ハ左ノ如ク十倍ニ薄メ使用スル

「デフテリヤ」	Bacillus Colombarum ナル「バチルス」ノ爲起ルモノナレトモ人間ノ「デフテリヤ」菌トハ異ル嘴ヲ開クトキハ喉頭部、聲帯及咽頭ノ周圍ニ黄ハミタル薄片ヲ認ムヘシ是即チ壊死ニ罹レル粘膜ノ殘骸ニシテ速ニ吐キ出サシメサルヘカラス若手當ヲ怠ルトキハ此ノ薄片ハ「バ	病ニ罹レルモノヲ隔離ス「デフテリヤ」ノ腫物ハ熱スル前ニ之ヲ除去スヘカラス是出血ノ爲貧血ヲ起スコトアレバナリ單ニ嘴ヲ開キ認メ得ヘキ患部ニ筆ヲ以テ十倍ノ「ヨヂウム」丁幾ヲ塗布スヘシ「ヨヂウム」ノ處方ハ口瘡ノモノヲ適用スヘシ又右ノ液ニ浸セル羽ヲ廻ハシツツ食道ノ内部ニ塗布ヲ行フヘシ成シ得レハ羽ヲ嚙嚙マテ挿入スヘシ此ノ治療ハ二、三日間ハ朝夕二回行ヒ又治
ヲ可トス 「ヨヂウム」丁幾	一〇瓦	
沃度加里	二瓦	
蒸餾水	一〇〇瓦	
若重症ナレハ治療ハ一日四回ニ増加スルヲ要ス		
食餌 「パン」ヲ水ニ浸シ次テ水ヲ去リタルモノ、焚キタル米又ハ麥、甚タ純良ナル水菜トシ雛鳩之ニ罹ルトキハ總テノ食物ヲ拒ムコト多シ此ノ場合ニハ嘴ヲ開キ小蠶豆又ハ表ヘ湯ニ通シ膨ラシタル米粒ヲ落シ込ムヘシ		

結膜炎 Conjunctivitis	「ター」狀トナリ次テ石ノ如クナリ時トシテ其ノ容積小蠶豆若ハ是以上ニ達ス之カ爲呼吸ハ妨ケラレ又採食困難ニ至ル	療ノ初期ニ於テ二、三日間要スレハ患部ニ純粹ノ「ヨヂウム」丁幾一滴ヲ塗布スルモ可ナリ食餌 小麥及米トシ水ハ極メテ清良ナルモノヲ與ヘ屢取リ換フルヲ要ス
疱瘡(又ハぼつげん) Varicelle	換羽期ニ於テ屢起ル疾病ナリ腫物ヲ除去スルコトヲ禁ス病ニ罹レルモノヲ隔離シ鹽湯(結膜炎ニ用ウルモノ)ニテ洗フヘシ	病ニ罹レルモノヲ隔離シ鹽湯(寒胃ノ爲ノト同シ處方)ニテ眼ヲ洗ヒ夜ニ入り指ノ腹ヲ眼球上ニ扁豆大ノ軟膏ヲ貼スヘシ軟膏ノ成分左ノ如シ 「ワセリン」 二〇〇瓦 酸化水銀(黄色) 一瓦
癩 Lade	眼及嘴ノ周圍ニ生スル腫物ニシテ初ハ膿ヲ持ツモ次テ硬結ス	腫物ヲ除去スルコトヲ禁ス病ニ罹レルモノヲ隔離シ鹽湯(結膜炎ニ用ウルモノ)ニテ洗フヘシ食餌 古キ小麥、米、亞麻ノ實、水ハ甚タ清良ナルモノ
親鳩カ哺育ヲ始メテヨリ八日以内ニ離ト離レ又ハ之ヲ失ヒ乳汁ノ處置著カサル爲ニ生ス	失ヒシ雛ト同日頃生レタルモノ一羽ヲ當テ飼フヘシ若適當ノモノナケレハ夫ヨリ數日前ニ生レタルモノニテ可ナリ之モ亦不可能ナル場合ニハ微温湯ヲ以テ嚙嚙ヲ洗ヒ二十四時間絶食セシメタル後硫曹二瓦ノ下劑	



下痢	食餌ノ不良又ハ不消化ニ基 因ス	ヲ投スヘシ又糞鳩ト是非共離ササルヘカラ サル場合ニバ上述ノ下劑ヲ投シ之ニ依リテ 發病ヲ未然ニ防キ得ヘシ
肺結核	先天的衰弱、肺結核ニシテ 鳩ハ瘦削衰弱ス	二十四時間ハ僅ニ重曹ヲ加ヘタル牛乳ヲ與 ヘテ水ニ浸シテ水ヲ去リタル「パン」ト飯 粒ニ亞硝酸荳粉ノ粉ヲ振り掛ケタルモノ一 日一羽ニ二十瓦ヲ與フ 飲料ハ米ノ磨水ニ硫酸鐵(水一「リットル」 ニ三瓦)ヲ交ヘタルモノヲ與ヘ二日間右ノ 如ク取扱ヒタル後常食ニ復ス
咽喉鳴リ Hoarse	氣管支又ハ肺ノ炎症ヨリ起 リ又ハ急ニ冷ヘ或ハ炎暑ノ 候甚タ冷キ水ヲ嚥下セル等 ニ因リ起ル 時トシテハ結核ヨリ來ルコ トアリ	寒冷ノ候ナレハ鳩ヲ温キ室ニ、炎熱ノ候ナ レハ通氣好ク且乾燥セル室ニ移ス若結核ヨ リ來ルモノナルトキハ殆ト治愈ノ見込ナシ 然レトモ一應ハ肺結核ニ就テ述ヘタル療法 ヲ試ムルヲ可トス 注意 井戸ヨリ汲メル水ヲ直ニ鳩ニ與フ ルコトハ絕對ニ避クヘキコトニテ必ス 蓋ヲ有スル清潔ナル容器ニ入レテ鳩舎 ニ置キ少シク温度ヲ高ムルヲ要ス

肝臟病	原因ハ過食、頻發セル消化 不良、不良ナル食料ニアリ 糞ハ綠或ハ帶綠色ニシテ體 温下リ時トシテ心臟ノ鼓動 普通ナラス	第一日ハ全ク絶食セシム 第二日 水ヲ浸シ之ヲ搾リタル「パン」、飲 料トシテ冷水ニ重碳酸曹達(水一「リット ル」ニ珈琲匙一杯)ヲ加フ 第三日 「カロメル」下劑(一鹽化水銀)ヲ與 ヘ夕刻小麥ト飯粒ヲ與フ飲料ハ米磨水 第四日 常食ニ復ス
翼ノ疾病	關節「レウマチス」ニ起因シ 鳩ノ飛行ヲ不可能ナラシム 濕氣、過度ノ疲勞、豐富ニ過 クル食料、遺傳ハ此ノ原因 ニシテ死ヲ招キ又ハ傳染ノ 患ナキモ軍用鳩タル資格ヲ 失ハシムル疾病ナリ病氣ノ 經過ハ多クハ迅速ナリ而シ テ二種ノ異ル症狀ヲ呈ス 第一ハ多クハ第二ノ端緒ニ 過キス 故ニ今病ノ輕重ニ依リ二種 ニ區別セム	輕症 籠内ニ厚ク臥藁ヲ敷キ此ノ内ニ休息 セシメ冬季ハ之ヲ温室ニ、夏季ハ空氣ノ流 通好ク(但シ氣流ナキヲ要ス)乾燥セル場所 ニ置ク梅指ヲ以テ關節部ニ「マッサージ」ヲ 行ヒ又「ヨヂウム」丁幾ノ塗布ヲ行ヒ下劑ヲ 投ス 食事ハ小麥、亞麻ノ實及米トシ適宜ニ青物 ヲ與フ 飲料ハ一「リットル」ニ付左ノ調合ヲ爲セル 水ヲ與フ 重曹 三瓦 硫曹 二瓦 食鹽 一瓦 常食ニ復スレハ順序ヲ逐ヒ次第ニ復舊スヘ シ

換羽困難	ノ下ニ軽度ノ震ヲ認ム 重症 翼ハ強ハリ一切飛行 シ得ス關節部ニ黄バミタル 腫物ヲ生ス	當分大ナル勞役ヲ命スヘカラス 重症 治癒ハ頗ル困難ナリ前述ノ手當ヲ行 フモ軟キ腫物ヲ關節部ニ生シ其ノ内ニ含メ ル腐敗セル血液カ膿様ノ粘液ニ變スルニ至 テハ刃針又ハ切開刀或ハ能ク研キタル「ナ イフ」ニテ患部ヲ切開シ液汁ヲ排出スヘシ 但シ關節ヲ傷ケサルニ注意スヘシ 若膿汁再ヒ發生スルコトアラハ手術ヲ繰返 スヘシ
條蟲	鳩ハ活氣ナク復削スルモ食 慾盛ナリ肛門ノ周圍ノ羽ハ 濕ヒ鳩舎内ニテ鳩ヲ強ク逐 ヒ廻ハシ呼吸ノハツム迄飛 ハシメタル後之ヲ捕ヘテ肛 門ノ周圍ヲ點檢スルトキハ	食餌ハ左ノ配合ニ依ル 小 麥(成シ得レハ新) 四〇「プロセント」 蕎 麥 四〇 麻 實 二〇 鳩ハ巢又ハ籠内ニ干草ノ床ヲ設ケ之ニ水ヲ 撒キ此ノ内ニ閉チ込メ置クヘシ 之ニ罹レルモノハ隔離シ二十四時間絶食セ シム 次テ「エーテル」粒二箇ヲ與ヘ十分時ノ後雄 齒朶ト「カロメル」「エーテル」越幾斯二膠 囊 Capsules (「キクス」〇瓦五〇及「カロメ ル」〇瓦〇五)ヲ與ヘ十五分後ノ後蓖麻子油

中 毒	鳩ニ下リ有害ノ鹽類ヲ啄ム ニ起因ス	二錠ヲ與フ 二十分間ノ後條蟲ハ排泄セラルヘシ 此ノ治療ヲ行ヒタル後ハ右ノ鳩ヲ監視スル ノ必要アリ是此ノ如キ手荒キ療法ニ堪ヘ兼 ネタル鳩アレハナリ又籠ノ底ニ色紙ヲ敷キ 逐次排泄スル條蟲ノ斷片ヲ調ヘ得易カラシ ム蟲ノ頭排泄セラレサル間ハ全治ト謂ヒ難 シ 頭ヲ下ニシテ鳩ヲ持チ輕ク嚙嚙ノ部ヲ壓シ 其ノ内ニアルモノヲ全部吐キ出サシム次ニ 硝子管ヲ以テ水ヲ其ノ内ニ通シ洗滌スヘシ 硝子管ニ代フルニ管狀餛飩(「マカロニ」)ヲ 用ウルヲ得次ニ之ト同法ニ依リ牛乳ヲ與フ ヘシ(斯ノ如クセサレハ牛乳全部ニ毒ヲ散 播スルノ虞アリ) 翌日硫曹ノ下劑ヲ投シ翌々日ヨリ常食ニ復 ス
難 産	輸卵管内ニ卵ノ停滞スルナ リ(輸卵管トハ其ノ内ニテ 胚珠カ石灰質ノ殻ヲ以テ圍 マルル部ナリ)	日々二回「オリーブ」油ヲ以テ陰部ヲ滑ニス ヘシ二日後ニ於テ猶産卵ヲ見サルトキハ前 ヨリ後ニ甚タ穩カニ「マッサージ」ヲ行ヒ漸 次之ヲ強ムヘシ時トシテハ此ノ療法ハ數回

卷二編 佛軍軍用鳩飼育法



卵ノ傷	此ノ病氣ハ雌カ衰弱、疲勞甚シキトキ起ルモノトス症狀ハ腹部ノ膨脹、排泄孔ノ炎症及狹窄ヲ起スニアリ	繰リ返スヲ要スルコトアリ此ノ病氣ニ罹レル雌ニハ休憩ヲ與ヘ成ルヘク其ノ年ニハ産卵セシメサルヲ可トス之カ爲ニハ雄ト同棲後八日目ヨリ巢ノ内ニ二箇ノ卵(二十四時間ヲ隔テテ)ヲ置キ之ヲ抱カシムルコトニ依リ之ヲ防キ得若雌カ其ノ卵ヲ抱クヲ肯ンズルトキハ雄ト共ニ之ヲ抱キ解化ノ後ハ實子ト同様ニ愛育スルモノナリ
解化困難	僅ノ衝突ヲ受ケ卵ニ縛又ハ凹ミヲ生スルコトアリ 殻ノ厚キニ過クル場合等ニハ時トシテ子鳩カ卵ヨリ出ツルニ困難スルコトアリ	殻ノ内面ニアル膜カ破レサレハ修理シテ解化セシムルコト容易ナリ即チ時ヲ經サル内ニ傷ヲ生シタル場所ニ「ころちをん」(ころちゆーむ)液ヲ塗レハ可ナリ 解化ノ時機ヲ過クルコト二十四時間ニシテ卵ノ表面ニ小孔ヲ生シ雌鳩カ之ヨリ嘴ヲ生シタル儘閉チ込メラレアルヲ認ムルトキハ直ニ之カ救助ヲ行フヘシ 銀貨ノ如ク縁ニ刻ミノアル貨幣ヲ取り殻ノ中腹部ヲ一周スル圓周ヲ畫クヘシ若猶數時間ヲ經ルモ何等變化ヲ生セザルトキハ最大ノ注意ヲ以テ前ニ銀貨ノ通リタル圓周附

第九章 手術

鳩取扱者ノ自ラ行ヒ得ヘキ外科手術ハ甚タ狭キ範圍ニ限ルモノトス鳩取扱者ノ有スル器械ハ甚タ粗末ニシテ又解剖學上ノ智識モ豊富ナラサルヲ以テ施シ得ヘキ手術ハ左ノ四種類ニ過キス

- 一 骨繼キ
- 二 銃傷、猛鳥ノ爪傷、電線ニ依ル傷ノ手當
- 三 嚥嚢内ニアル異物ノ除去
- 四 腫物ノ治療

近ノ殻ヲ少シク取り去ルヘシ此ノ操作ハ極メテ微妙ニシテ最大ノ注意ヲ要ス若誤テ僅ニテモ子鳩ノ腹部ニ傷ヲ負ハシムルトキハ必ス之ヲ死ニ至ラシムルモノナリ

折レタル兩部分ヲ精密ニ著ケ全體ヲ平常ノ位置ニ持テ來タスヘシ此ノ際骨ノ重ナリ合フコトナキ如ク注意スヘシ細キ副木三本ヲ作リテ之ヲ以テ骨折部ヲ取り卷キ骨ノ移動ヲ避クヘシ其ノ上ヲ紐ニテ締ムヘシ但シ血液ノ循環ヲ妨クル程度ニ固ク締ムヘカラス然ル後鳩ヲ籠ニ取ルヘシ十五日ヲ經ハ鳩舎ニ戻シ危険ナキモ副木ヲ取ルハ三週間後ニ於テスルヲ安全トス

二 銃傷

佛軍軍用鳩飼育法

傷ノ周圍ノ羽ヲ取り去リ次テ清潔ニ手ヲ洗ヒ傷ヲ搜リ創口ヲ開キテ彈丸ヲ抜クヘシ碎ケタル肉部ハ切り去ルヘシ創口ニ「ヨジウム」丁幾ヲ薄ク塗布スヘシ(石炭酸ハ嚴禁ス)若シ嚙囊ノ貫カレタル場合ニハ縫創針及麻糸トヲ用キテ縫合セ(重ネサルナリ)縫合スヘシ但シ總テ此等ノ材料ハ豫メ水ニテ煮ルヲ要ス

三 爪傷及電線ノ傷

先ツ硼酸水或ハ酸素水ニテ洗ヒ次ニ創口ノ周圍ニ「ヨジウム」丁幾ヲ少シク塗布シタル後前述ノ方法ニテ縫合スヘシ但シ此ノ際縫合目ノ中ニ羽ヲ縫込マサル様注意スヘシ

四 嚙囊内ノ異物除去

切開ヲ行フヘキ部分ノ羽ヲ取り去リ手ヲ清潔ニ洗フヘシ切開刀又ハ好ク研キタル「ナイフ」ニテ長サ二厘米ノ切り口ヲ設クヘシ異物ヲ切り口ノ部ニ引キ寄せ之ヲ取り去リ創口ノ周圍ニ「ヨジウム」丁幾ヲ塗布シ前述ノ方法ニテ元ノ如ク縫合スヘシ

五 腫物ノ治療

切開刀又ハ好ク研キタル「ナイフ」ヲ以テ腫物ノ頂部ニ十字形ノ切口ヲ設ケ指ヲ以テ壓シ内部ノ液汁ヲ壓出シ次テ硼酸水又ハ酸素水ヲ以テ創口ヲ洗フヘシ創口若二細米以上ナルトキハ二針縫合ヲ行フヘシ然ラサル場合ニハ縫合セサルモ創口ハ自然ニ癒合ス  
前記各種ノ創口ハ示シタル方則ヲ守リ丁寧ニ取扱ヘハ數日後ニハ癒合スルモノナリ凡ソ鳩ノ傷ハ甚タ速ニ治癒スルモノナリ

第十章 寄生蟲

鳩舎ニハ或ル種類ノ寄生蟲發生シテ鳩ヲ苦ムルコトアリ其ノ最普通ナルモノヲ虱、蟻、Acarus (蛛蜘蛛類) 赤だに、だに、羽蟲トス  
是等ノ寄生蟲及之ヲ撲滅スヘキ便法ハ以下述フルカ如シ總テノ場合ニ於テ毎年換羽ノ後冬ニ入ル前ニ於テ鳩舎ヲ根本的ニ消毒スルコト必要ナリ其ノ方法左ノ如シ

- 一 總テノ入口室等ヲ塞キ棒狀ノ硫黃數本ヲ燃ヤスヘシ但シ硫黃ハ鐵又ハ鑄鐵ノ容器中ニ入レ其ノ下ニハ煉瓦又ハ石ヲ敷キ鳩舎内ノ處々ニ置クヲ要ス斯クシテ硫黃ノ蒸氣ヲ四十八時間鳩舎内ニ籠ル如クス
- 二 巢、止リ木其ノ他總テヲ取り除キ得ル部分ヲ分解シ壁其ノ他固定ノ部分ヲモ落チナク刷毛ヲ懸ケ然ル後全部ヲ石灰乳(「リットル」ニ石炭酸珈琲匙二杯分ヲ投シ)ヲ以テ消毒スヘシ

寄	生	蟲	手	當
虱	長ク透明ニシテ羽ノ内部翼及尾羽ノ下ニ棲息ス 屢糞鳩、病中ノモノ、沐浴ヲ爲ササルモノニ發生ス	一週二回沐浴セシメ其ノ水ニハ酢又ハ刺覽埋爾(Lavande)(唇形科植物)ノ煎藥ヲ混シ羽「がひ」ノ内部及羽ノ表面ニモ良質ノ除蟲菊ノ粉ヲ吹キ入ルヘシ 特ニ營養物ニ注意スヘシ		



<p>寄生蠅</p>	<p>馬ノ蠅ニ似タルモ是レヨリ小ナリ但シ其ノ羽ハ馬蠅ノ夫レヨリ發達ス甚ク速ニ鳩ノ羽「ガヒ」ク間ニ入り込ミ潜伏ス</p>	<p>右ト同様ニ依ル</p>
<p>Acares</p>	<p>蜘蛛類ニ屬シ極メテ小ナル赤味カカリタル小昆虫ナリ不潔ナル巢、乾キタル糞ノ内ニ生活シ且繁殖ス此ノ蟲ハ雛鳩(夜ハ親鳩ヲモ)ヲ攻撃ス</p>	<p>日々巢ヲ掃除シ糞ヲ取り去ルヘシ「クレゾール」石鹼ニテ洗滌ヲ行フ巢ノ内ニ「クレゾール」一摘ミヲ入ル</p>
<p>赤壁蝨</p>	<p>長キ「だに」ノ一種ニテ色ハ灰色ニ赤味ヲ帯ヒ足ハ六本アリ走り方速ニテ若鳩ノ體ニ半身ヲ挿シ込ム此ノ蟲ハ甚ク頑強ニシテ危險ナリ</p>	<p>此ノ蟲ヲ認メタル鳩舎ハ完全ナル消毒ヲ行ヒ巢其ノ他ノ鳩舎具ヲ取去リ石灰及「クレゾール」ニテ木部ヲ洗滌スヘシ</p>
<p>壁蝨 Argasflexus</p>	<p>鳩舎ノ寄生蟲中最普通ナルモノナリ形ハ卵圓形ニテ色ハ赤ク足ハ八本アリテ</p>	<p>此ノ蟲ノ驅除ハ甚ク困難ナリ殊ニ鳩舎ニ天井ナク梁木現ハレアル場合ニ於テ然リ然レトモ總テ入口ヲ密閉シ硫黃燻蒸法ニ依ル</p>

其ノ尖ハ鈎ヲ爲ス大サハ豆粒位ニ達スルモノアリ甚ク頑強ニテ口ハ吸盤ノ形ヲ爲ス

「だに」ハ其ノ卵ヲ木ノ割レ目ニ著ケ其ノ孵化ハ毎年春鳩ノ一番子ノ生ルト同時ナリ「だに」ノ子ハ始メハ白ク全身足ノミノ如クニテ甚ク見エ難ク一層危険ナリ然レトモ其ノ成長頗ル速シ若鳩ノ首、皮膚ノ皺ニ之ヲ認メタル當初ニ於テハ除蟲菊ノ粉ニテ驅逐シ得ルモ成長セル蟲ニハ此ノ藥ハ效果ナシ

晝間ハ壁又ハ木部ノ穴ニ潜伏シ夜ニ至レハ雛鳩ノ居ルト認メタル巢ヲ襲ヒ飽ク迄其ノ血ヲ吸ルモノナリ雛鳩ノ養育期ヲ過クルトキハ遠ク去リ次ノ養育期迄ハ全ク潜伏ス

消毒ヲ試ムルヲ要ス完全ニ此ノ蟲ヲ驅除スルニハ至ラサルモ次ノ法ヲ用ウルトキハ少クモ其ノ繁殖ヲ妨ケ得ヘシ

即チ親鳩ニ卵ヲ抱カシムル前總テノ木部、止リ木、巢ニ亞麻仁油ヲ塗ルヘシ此ノ油ハ「だに」ニ對スル消毒劑トシテ妙ナリ

哺育ノ時期ニ入ラハ日々行フ掃除ノ外夜間燈ヲ點シテ鳩舎ヲ巡視シ壁、間仕切りニ居ル「だに」ヲ殺シ又「だに」捕リ器ヲ用ウヘシ

「だに」捕リ器ハ二枚ノ長板ヲ重ネ耳附キノ螺子ヲ以テ其ノ隔リヲ適宜ニ加減シ得「だに」ヲ捕フルニハ少シク螺子ヲ緩メ二枚ノ板ノ間ニ蟲ノ隠ルル餘地ヲ置キ之ヲ壁側ニテ天井ト巢トノ間ニ置ク

「だに」捕リ器ハ晝間ニ至リ點檢ス若「だに」ノ襲撃餘リニ盛ナル場合ニハ「だに」ノ傳ヒ來ラサル爲巢全部ヲ鐵又ハ亞鉛製五徳(高サ五珊米)ノ上ニ置キ五徳ノ下ニハ或ル容器ヲ置キ之ニ亞麻仁油ヲ入ル冬季ニ至ラハ總テノ木部、巢、止リ木ハ取り外ツシ外部ニ持チ行キテ消毒スヘシ又此ノ機會ヲ利用シ鳩舎ヲ修理シ塗料ヲ代ヘ穴ヲ塞キ角ヲ丸メ

羽 蟲	
<p>羽ヲ襲ヒ其ノ通リタル痕ニハ小キ穴ヲ遺スモノトス穴ノ大サハ留針ノ頭程ニテ左右對稱ニ配置セラル</p> <p>此ノ寄生蟲ハ清潔ニシテ通氣宜キ鳩舎ニテ鳩カ第六章ニ示シタル如ク沐浴ヲ行フ所ニハ存在スルコトナシ</p>	
<p>此ノ蟲ノ存在ヲ認メタル場合ニハ煙草ヲ煎シタル強キ煎藥中ニテ沐浴セシムレハ之ヲ去リ得ヘシ</p> <p>然レトモ尙完全ニスル爲良質ノ除蟲菊ノ粉ヲ羽ノ下ニ吹キ入ルルヲ可トス</p>	<p>「クレゾール」石鹼ヲ壁ニ塗ルヲ有利トス右ノ修理ハ一室毎ニ行フヲ得ルモ落テナク全部ニ及ボスヘシ若壁ニ向テ平ニ打著ケタル板アタハ總テ取リ去ルヲ可トス是其ノ裏面ハ「たじ」ノ好テ棲息スル所ナレハナリ</p>